令和 5 年 3 月 18 日(土)

土佐紀行

島崎

1, 目的

令和 4 年 4 月信玄公生誕 500 年祭に、土佐の会のメンバーが山梨に来られ、小山田信茂顕彰会の役員と友好を深めた。その返礼として今回「武田勝頼土佐の会」の講演会「生天目(なばため)の陣」に参加するためにお伺いした。

参加者 6 名：小俣公司会長、武田副会長、溝口副会長、島崎副会長、折笠ブログ担当、林ご住職

＊松本主宰は体調不良のため欠席

車　：折笠様自家用車 7 人乗りプリウス　車内は手荷物とお土産でぎゅうぎゅう

【一日目】

2, 往路

小俣会長宅集合して出発 3：50 ⇒中央道富士吉田線 ⇒新東名⇒ 新遠州森町 PA(トイレ)

⇒伊勢湾岸自動車道 ⇒新名神 ⇒鈴鹿 PA（朝食伊勢うどん）

神戸淡路鳴門自動車道 ⇒徳島に入った公園(トイレ・橋をバックに記念撮影)

高松自動車道(徳島自動車道の方が近い) ⇒津田の松原 SA(昼食かしわうどん＋α・給油)

⇒高知自動車道伊野 IC ⇒国道 33 号線仁淀川町庁舎

朝食：伊勢うどん、汁無し、柔らかい麺　＊武田さんは違ううどんを食べていた。

徳島に入って橋をバックに記念写真

徳島道路は新しくナビに無かった。知らない土地なのでナビ通り高松自動車道路を選択。
昼食：かしわうどん、香川スタイル：具を選択⇒会計⇒汁かけ⇒ねぎと天かす盛り付け自由
岡林会長からの連絡で、高知自動車道の伊野 IC で降りバイパスを行くように連絡があった。当初予定より時間短縮出来た。四国も道路開発が進んでいる。

3, 町長表敬訪問

本庁舎は 2017 年頃建てられたそうで、外観は綺麗で、室内職員が一望できすっきりとしていた。

仁淀川町本庁舎

本庁舎横ポリスステーション

本庁内のあっちこっちで歴史の話

町長他町幹部職員(紹介は無し)

① 司会　「武田勝頼土佐の会」岡林照壽会長
② 訪問者代表挨拶　片岡様　武田勝頼と土佐の関係の説明と、訪問者の紹介。
③ 大月市長親書　代読：「小山田信茂顕彰会」小俣会長
④ 仁淀川町ご挨拶　仁淀川町古味町長
- 仁淀川ブルー　水質が日本で一番の河川に何度のもなっている。
- 伝統の神楽が仁淀川町には三つもある。
- 桜や珍しい草花があり観光客がくる。次期がずれているので今度是非来て頂きたい。
- NHK の連続ドラマ次回作の植物学者が活躍したところ。

⑤ 質疑
- 中津先生　信じる信じないは別として、十数年前に出版された武田家に関係する本があった。その本に多くの県が記載されていたが高知県は載ってなかった。武田家に関する史跡がこれだけあるのに残念です。町興しとしてもっと宣伝した方が良い。
- 小俣会長　信玄公生誕 500 年を記念して山梨県では短編映画「信茂と勝頼」を製作し 3 月 15 日までは YouTube で無料に見れます。

⑥ 記念撮影

右から岡林会長、坂本教授、伊与久様(真田忍者末裔)、片岡様郷土歴史小説家、中津先生（横浜在住の小説家 88 歳)、仁淀川町古味町長、小山田信茂顕彰会小俣会長他五名(林氏・武田氏・溝口氏・島崎・折笠氏)

表敬訪問後の記念撮影

4, 一泊目宿泊「山村自然楽校しもなの郷」　＊他の訪問者は「武田勝頼土佐の会」に分散宿泊

お風呂は二人入れるサイズ、女性客がいないので両方使って入浴した。トイレと洗面所は共用。

しもなの郷(元小学校)

しもなの郷対岸と地ビール工場

夕食　専従職員(男)さんと当番(女性)と記念撮影　地ビールとご馳走

気になったのは「わさびの葉」をすったものとイタドリの和え物？

【二日目】

朝食　当番の女性は代わった。地域起こし協力職員期間 3 年の方です。

朝食 7：30　8：30 出発　（集合庁舎 9：00）

5,　史跡ガイド

岡林照壽会長のガイドで史跡巡り、岡林会長は公認ガイドで、500 円/人でガイドしている。

高知では明治の廃仏毀釈でお寺が無い(少ない)。言葉や諏訪神社など信州と縁がある。

探索前岡林会長の説明(庁舎前)

庁舎の対面の家に表示

まいさくる：「散策？」の土佐弁

（1）　武田勝頼公墓所　庁舎裏側宅地隅

【立て看板】

祭神　玄蕃頭比古神(武田勝頼＝大崎玄蕃)・美津岐大神(三枝夫人)

由緒

甲斐武田家、第二十代当主である武田勝頼(変名大崎玄蕃)と三枝夫人（変名美津岐夫人）夫婦の埋葬された墓の前に建立されたる鳴玉神社です。

勝頼は慶長十四年（1609）八月二十五日に六十四歳で亡くなります。

三枝夫人は元和二年（1616）十月十九日に亡くなって共に祀られています。

三枝夫人は歴史的に出てこない夫人で、実子の正晴と共に落ち延びた事が系図に書かれていて大きな謎です。

大崎川井土居屋敷の柿木元に葬られた事が系図に記されております。四百年以上の時を経た現在、この柿の木は赤い実を実らせます。

勝頼の戒名　浄福院殿榮秋道勝大居士

夫人の戒名　惠照院殿清月宗光大姉

これらは系図に記されており、また長宗我部地検帳からも土居屋敷の場所が確認でき、土佐へ来た武田勝頼の伝承を物語る上でも重要な史跡です。

毎年、大崎八幡宮の秋祭(十一月十五日)と玄蕃祭(旧暦八月二十八日)には御神幸(おなばれ)が行なわれ、御神体が神輿に運ばれてきて祭祀が行なわれます。

更に詳しい情報や周辺観光情報は、下の QR コードで携帯からチェックできます。QR 無ガイド案内なども致します。お気軽にご連絡下さい。

設置者　武田勝頼土佐の会　電話 0889・20・2003

鳴玉神社　　武田勝頼公と三枝夫人の墓石(鳴玉神社裏)

(2)　武田信勝墓所

【立て看板】

武田信勝墓所（勝頼の子）

由緒

信勝は、武田勝頼の嫡男、母は織田信長の養女・東山勘太郎の実の娘、永禄十年(1567)信濃伊奈郡高遠で生れる。寛永六年(1629)七月十一日六十三才で亡くなる。墓所は「烏帽子岩と川井との間に川端に森あり此の所に葬る」と、また父勝頼と共に大崎に下り山岡勘右衛門と云うと系図に書かれています。

信勝の戒名　清照院殿峯岩浄空禅定門

旧葉山村貝の川(地検帳では甲斐川)には謎の大前神社があります。最初に貝の川に来た人物が大崎五郎衛門で、際神は大崎玄蕃だと言うのです。

更に詳しい情報や周辺観光情報は、下の QR コードで携帯からチェックできます。QR ガイド案内なども致します。お気軽にご連絡下さい。

設置者　武田勝頼土佐の会　電話 0889・20・2003

武田義男公の墓石(信勝墓石左隣)　　武田信勝の墓石

信勝の孫？

(3)　「武田勝頼土佐の会」常設展示会場　＊一部「生天目の陣」に展示のため無い

(4)　大崎八幡宮

大崎八幡宮の小山へは、坂本教授、伊与久様、片岡様の 3 名は徒歩、他は岡林会長のご子息の宮司の車で行く。ガードレールが無く 1 台が通れる道。自分は危険で運転したくない道でした。

ご神体は数年前に県と調査をしたところ崩れそうな状態なので公開していない。

以前は大崎八幡宮のお祭りには大勢集まって舞い？をしたが、近年は過疎化・少子化で数人程度しか集まらない。舞いは出来ていないが他地区では引き続き行われている。

【立て看板】

大崎八幡宮（武田家始祖を祀る）

由緒

地域では別名武田八幡宮とも呼ばれています。武田家系図には天正十四年(1586)勝頼建立が最初に出てきます。神官の系図には同年「右八幡宮御神体十二尊木像安置之・神鏡一面・幣串一本奉納有之」と書かれています。

次に享保九年(1724)に井上三郎右衛門が、また文化六年(1809)中島益右衛門が再建した棟札が記録として残されています。

十二尊木像は希に古いもので武田氏の始祖と思われます。武田八幡宮から勝頼自ら携えて来たと言い伝えられていて謎に包まれています。

際神は、十二尊木像を中心に八幡宮・神明宮・琴平神社・大山神社命・竈厳神社・鳴玉神社・三津岐神社・愛宕神社・住吉神社が祀られています。

土佐州郡志(1710 年頃)の記録には「古城跡大崎長門居」とあります。

大坂夏の陣後(1615)に一国一城令で城取り壊しの時生存していた武田信玄の三男で武田信仲(大崎長門守信安)が系図に出てきます。

元和四年(1618)に亡くなっていますので土佐州郡志の記録に残ったと考えられています。

更に詳しい情報や周辺観光情報は、下の QR コードで携帯からチェックできます。QR 無ガイド案内なども致します。お気軽にご連絡下さい。

設置者　武田勝頼土佐の会　電話 0889・20・2003

大崎八幡宮の小山

大崎八幡宮

【大崎八幡宮内説明書】

一之御殿　八幡大伸

八幡さまが史書に述べられたのは、聖武天皇天平 12 年(740)に藤原広嗣が反乱をおこした時に大将軍大野東人(おおののあずまんど)に詔して「八幡神」に祈請せしむと『続

日本記』にある。

また同じく「八幡神社」とか「八幡大神」また宣命には「豊前国宇佐郡に座す広幡の八幡の大神」とある。

宇佐の社伝『八幡宇佐宮御託宣集』等には、八幡様が御出現した欽明天皇 32 年(571)に「誉田天皇広幡八幡麿」また「我名をば

二之御殿　比売(ひめ)大伸

現在の本殿は向かって左から一之御殿、二之御殿、三之御殿とならび、二之御殿の前に申殿があり、八幡造りの本殿があるが、823 年弘仁 14 年に三之御殿ができて、この形式になったので、それ以前は、一之御殿と二之御殿が並んでいたとなると、二之御殿の祭神を、八幡さまの妻神と考えられたり、八幡さまとの中をとりもつ女神などと考えられた。すなわち玉依比売(たまよりひめ)とか大宮能売神(おおみやめのかみ)とかいう学者も

三之御殿　神功皇后

この日本で大陸との交易を積極的に押し進めたのは何としても神功皇后さまである。

九州の熊襲をしずめ、その背後にある黄金白銀のかがやく国との交易で神功皇后の外交政策は、文化交流の中での神道史でもある。まだ神託を中心とした九州の神々の祭りでもある。

そして胎中天皇であった応神天皇が大陸と交易した。その聖徳も高いが、胎中天皇としての奇蹟。そして皇太子になられた 3 才の童子の姿が八幡大神として崩御 261 年後にして宇佐

八幡大神【誉田別尊(ほんだわけのみこと)(応神天皇)】

東大寺の大仏建立や道鏡の神託事件の時など、数々のご神威をあらわし皇室を護られたことで朝廷から厚く信仰されてきました。また皇室だけでなく、清和源氏をはじめ全国の武士も武運の神「弓矢八幡」として崇敬を寄せ、一般の人々にも鎮守の神として親しまれてきました。 6 世紀、菱形池のほとりに初めてご顕現された八幡大神は「誉田天皇広幡八幡麿」また「護国霊験威力神通大自在王菩薩」と名乗られたと伝えられています。仏教の世界でも八幡大菩薩として崇められ、元寇の時に神風を吹かせた神は八幡様であるとされています。

「護国霊験威力神通大自在王菩薩」の名の通り自在なる御働きを顕しになります。

また、「八幡神」をお祀りしている八幡神社は全国に存在し、八百万の広がりを持つ強いご神力でご守護されています。

九州大分の宇佐新宮は全国 4 万社余りの八幡宮の総本山です。大崎八幡宮もその中の一宮に含まれている。

荒神様　大崎八幡宮山頂(顕彰会島崎のみ)

6, 生天目の陣

(1) 昼食

講演会前のお弁当とお茶(1,000 円)

(2) 開会式 司会 岡林正徒宮司（会長ご子息）

① 「武田勝頼土佐の会」岡林照壽会長挨拶

3.11 は二つの大きな悲劇、東日本大震災と天目山で武田が滅んだ。

10 年位前に武田旧温会の総会に招かれ 2 度程行って、武田勝頼が土佐で生きていた事を言った。武田二十四将の家臣では無いことから旧温会から破門みたいになった。武田祭の講演会にも招かれて行ったこともある。私が 20 年前最初に講演会を開いた当時は役場に勤めていた。？役員を 60 名ぐらい集めて話し、驚かれていました。系図が無かったら気がつかない事で、誰にも分からないことなので本を書いて講演会を開いた。

岡林照壽会長挨拶

② 来賓挨拶 仁淀川町 黒川教育長

黒川教育長挨拶

(3)　祝電　県会議員より

(4)　真田忍者研究会　伊与久松風会長(真田忍者末裔)　演武

＊　前日の話：以前太極拳を習いに上海？に住んでいたことがある。
柔道の日本代表の練習で指導したことがあるそうです。

紹介：昨年甲府の武田八幡宮創建 1200 年(韮崎)、武田信玄公生誕 500 年にてお会いした。昔から伝わる武術の奉納を拝見し、私たちは土佐の武田の話をしました。伊与久さまはあらゆる武術を求道され、日々体術の普及に邁進されています。

長野県諏訪から来た伊与久松風です。もう一つの書方は伊能です。真田一族が知略謀略にて徳川を大いに苦しめた戦いをした。真田一党の前に、徳川家康が前半生で一番恐れたが武田信玄公です。後に武田の武略を徳川家が取入れて甲州流兵法という形で伝わっていく、一名甲陽流とも言う。この兵法を継承した家が武田二十四将で、この中に真田一族が名前を変えて三名居ます。武藤喜兵衛(真田昌幸)、真田信尹この方が真田の隠密を使っていた方です。真田は武田の武略を受け継いで、特に武田勝頼のために使っていた。真田の犬伏の別れというドラマが有り、真田が東(信之公 徳川方で沼田)西(信繁公(我々は幸村様と呼ぶ) 豊臣方)に分かれたときに西に行くものを伊能と字を変えた。よそ者は「イノウ」と呼び、身内は「イノウ」と呼んだと聞いている。真田一族の我々は吾妻、群馬の今で言う沼田・草津温泉あたりの山間に隠れ里的に、仁淀川町に似ていて山間に家が点々と家があるところ。戦国時代に吾妻街道といって、西と東に行く所の中間点で南北東西ですね、そこを征したら関八州を狙うのに非常に良いところで、上杉・北条・武田、武田の先鋒としての真田。この三つ巴の戦いが戦国の終わりまで続いた所です。地取り？合戦していた。

そこで私の先祖十四代前の伊与久うねめ、また十三代前伊与久孫四郎？が居りまして、その系統が真田様の指示で軍略を実行する部隊で「かまぎ」、「おおかまぎ」と言う。そういう家が 20 軒ほどあった。伊賀・甲賀が忍者で有名ですが、徳川の世になると忍び処といって徳川に組した。「神君伊賀越え」信長公が亡くなって、穴山梅雪さんと徳川家康さんがどっちのルートを行こうか迷ったときに、忍者の棟梁の服部半蔵が伊賀地侍を言い含めて最短距離で三河まで帰ったと伝えられている。最近では甲賀を越えた言って、伊賀と甲賀で争っている。

伊賀と甲賀で忍術がまとめられたとされていますが、実を言うと戦国時代の事は殆ど分かっていない。もし武田信玄公が武田幕府を開いていたら、忍び処の中心は武田であり真田だったりする。忍者の移動が点々と見られる。おもに武田信虎公、信玄公のお父様が甲賀の忍者を家ごと甲州に何人も連れてきて一族ごとそこに住まわせた。一人は武田二十四将に入っている横田高松(たかとし)、もう一人は多田三八郎で近江源氏の忍者の出かな！そういう家々が甲斐に移住してきている。こういう人たちが創った流派は、伊賀流でも甲賀流でも無く武田家の専門の武田家に仕えるためのもの。伊賀とか甲賀、特に伊賀は傭兵部隊で各国に高く買ってもらう。つまりフリーランスの忍者。それに対して武田家の忍者は、信玄公の軍略のため武田軍団の一角を担うということで、よその忍者は使わないで武田家中で養う。それが三者(みつのもの)というが、家で伝わっている言葉は三者(みつ)です。学者の先生には三者(さんしゃ)と言われる。この三者(みつ)が信玄公の時に 200 人いて諸国に派遣されたそ

うです。勝頼公の時代にはそれを采配するのが真田に代わってくる。勝頼公が土佐にお移りになられるときに全国に散ったそういうルートを確保し、武田の命脈を保つための工作をした。その人たちが私たちの先祖の吾妻の武士です。そういう話を古老から聞いた。正直なところほんまかいなと思っていましたが、家族ってそんなに尊敬できるものでは無く、晩酌しながらいう事なので信用していなかった。その後いろいろな方と話をさせて頂き、特に「武田勝頼土佐の会」のご活動に触れてちょっと待てよという感じになった。

私ども吾妻群馬県で、そこには潜龍院といって勝頼公を御迎えするために、吾妻川の河岸段丘の上に要塞になる場所を拓いて、祢津潜龍斎という修験者を配置し、祢津潜龍斎が、勝頼公が来たときにそこを城にして修験者に守らせる。その修験者が、いわいる私どもの先祖になります。その人たちの控の地？実は使われなかったとされている。現地の方もだいたい同じ見解。故老の中には違うという人もいる。

武田二十四将の秋山さんの末裔の方と話したところ、勝頼公が逃げる際に家にお泊りしたとのこと。その方は相模の人でなぜ相模なのかと思ったが、武田の飛び地だった。なんかそういう話がいろいろ出てきて、歴史って教科書で学ぶだけではなくいろんな要素がある。とくにこちらに来させて頂いて、私もいろいろな話を聞いてそういう目で見ますと、これはあるんじゃないかなと、昨日からいろいろなところにお参りさせて頂き、私が聞いていましたところ、真田が下働きをしていた。

例えば仙台の蔵王にも真田の末裔の方が居られ、幸村公の末裔の真田徹さんという方が居られる。その方の家に伝わる伝書にも、真田さまが亡びる前に幸村さまが、伊達政宗の武将である片倉様に自分の子供を預けて逃がすというところがある。それが家伝に残されている。甲冑もありちょうどここと同じような感じで伝わっている。歴史家からすると証拠を見せろとなり、喧々諤々いろいろな話になる。その中に私が注目したのが、幸村公の御子息を逃がした時に一緒に付いて行った侍がいる。その名前が吾妻太郎という方。その人の系図が最近見つかったです。その吾妻家を辿っていくと我々と同じ一党なんです。全部が本当ではないにしろ、どっかしらあるんじゃないかと思っているところです。

忍者の話に戻しますが、忍者というのは、私の考えでは伊賀・甲賀の忍者は山伏と野盗みたいな平地でなく山ン中で暮らしていたような、山を跳んでいつも歩いているような屈強な人間だった。そうゆうライフスタイルを持った人たちが、四国は違うが昔の道は尾根沿いにある。山を越えると向こうに近い。ただ体の弱い人はいけない。徳川時代は国と国で完全に分けていた。その前も領国を越えるのは難しかったけど、山伏やお坊さんのように特別なパスポートみたいな物を持っている人はスイスイ行けた。山の中の獣道もよく知っているわけですね。全国中津々浦々の神社などに紹介状を持っていけば泊まることもできる。情報も集まる。そういうネットワークを持っていた人が母体になっているのだろう。もう一つは特殊な兵法を持っている人。特殊な兵法というとただ戦うだけではなく、生き残るための総合的なサバイバル術なんですね。例えば星を見てあと何時間で天気がどうなるとか、地面をなめてこういう感じでミネラルが強いから、だいたいこういう草が生えるだろうとか、あっち側から水が流れてくるだろうとか、そういう山の知識、自然環境に対応する昔の人の知識、そういうものが町場で暮らしているとだんだん分からなくなるんですね。そういうものを脈々と受け継でそれを工夫していく。そして戦略に使う時は平坦なところで槍・鉄砲・弓・馬という、いわいる兵法という他の部分から戦いを見られることです。普通お侍の武道というと刀を抜いて、もっと昔では名乗りを上げて戦う。そうではなくて楠木正成公がなんであんな

に山の中でなぜ強かったかというと、そういうのを度外視して一見ずるいというところで常軌を外れた戦をしたわけですね。それって立体的な機構で戦えるという事でもある。そういう兵法を主に得意とする人たち。今で言うと山岳ゲリラと言えるかもしれません。あとは特殊部隊とも言えるかもしれません。彼らは医者でもあったわけですね。修験者ですから星を見たり、占いをしたり、そしてまた人のネットワークを持っています。そういう人たちを戦国大名は押さえたかった。その一党を最も押さえることが出来たのが真田氏の一党だったと私は伝えられている？

私は十四代目と言われていますが、我が家に伝わったものは甲陽流兵法という、忍術と言わないじゃないのか。伊賀流忍術・甲賀流忍術そういうものとは違うのか。昔忍術という言葉は江戸中期できた。忍びのもの、忍びの法という物を昔は口伝で伝えていた物が、伝えていくのに「何とか流」とか書かなければいけませんよね。そういうときに忍びの法という忍法とか忍術というように伝え始めた。文書に起し始めたのがだいたい江戸中期なんですね。それまでは兵法書があって、兵法書のところにいろいろな術として併記されていた。

私どもの家は甲陽兵法ということで、小さい頃からわけも分からず修業をさせられていました。例えば家の祖母が手裏剣の名人だったんですね。皆さんが想像する手裏剣は星形の板みたいなもので、動作〔胸脇からトランプを連続的に投げるイメージ〕ではなく。本物の手裏剣はああいう物では無く、針みたいな物(現物を見せる)、平板の手裏剣は私も稽古をさせられましたが、投げられますでしょ、そうすると板が見えます。林の中で投げられても全然怖くないんです。針状の手裏剣は真っ直ぐ投げられれば点でしか見えない。昔は雑兵でも「こくそく？」頭に鉄と腰に付けた装備で、結構肌が露出しているので至近距離で投げると刺さるんですよ。私は人に刺したことは無いんですけど、家の祖母のエピソードよく笑い話で言うんですが、五人姉妹で、私の曾祖父が「もんざぶろう」と云って吾妻衆のそういうものを受け継いだ人ですね。五人姉妹で男の子が生まれなかったのでしょうがないんですね。婿を迎えることになってね。五人姉妹の一番下の「ちょうこ」というのが私の祖母で、一番下なので筋が良かった。五人でご飯を食べていたそうなんです，五人姉妹で、お母さんが早く死んじゃったんで、一番上の「あやさん」と云う人が十いくつか離れているんで、お母さん代わりにご飯を作っていた。「あやさん」は下の妹たちのために学校に行かなかった。そうするといらいらしてきますよね。ご飯を食べて、うちのお婆ちゃんはわがままで、あれは嫌だ、これは食えないなどと言ったら、あなたはもう食べなさんなとビシッと言ったんです、そしたら食べていたんで象牙の箸というのが有って、それを祖母もものすごく気が短い方だったんで、箸を「あやさん」の目に向って投げた。皆刺さったと思ったんですが「あやさん」もさすがに子供の頃から武芸をしていたんでね、手で避けたが、手の骨と骨の間に刺さって箸が突き出た状態になった。皆アッーと思った。うちのお婆ちゃんもやっちゃったと思ったらしいんですけど。そしたら「もんざぶろう」が来て、最初に「あやさん」の顔を張って、ワァットなったときに箸を抜いて止血して、その後うちの祖母の顔を張って、おまえはもう手裏剣の稽古をするなと言ったそうなんです。人に向けるから。でも隠れてやってった。人の言うことなんか聞くもんじゃない。それだから私は名人になったんだと言っていた。〔手裏剣を見せる〕箸みたいな形、これが正雪流手裏剣、由井正雪の手裏剣です。板に投げるとパンと刺さる。パン・パン・パンと列に刺さるですよ。簡単に抜けない。ぐりぐりしないと抜けない。細くて小っちゃい人だったんですけど威力がありました。手裏剣というと、吾妻の真田氏の家ところはだいたいこれを使います。それもね、我が家１軒だけでこれ

なのかなと思っていましたが、しばらくして割田下総守という有名な真田の忍びがいて、加沢記に書いてある。そこの末裔のお爺さんと私が会って、もともと割田さんとうちの家は非常に良い家だったんですが、行ったら割田さんの家も同じ手裏剣を使っていた。お互いに投げてみたのを覚えています。

このように真田の忍びの流れは最近まで残ってまして、私の先代に修験者が居りまして「ほんいさん？」と呼んでいた。その人は太平洋戦争の時に満州で特務機関に入ってスパイ活動をやっていたようです。その人たちがいうんですよ。武田のお殿様を、お殿様とは呼ばなかった貴人を、貴い人を西に逃がすために船をだしたという話を何回も言うんです。何かあったのかなと言うのを思っています。

忍者忍術でね、演武と言うことで勝頼公に花を手向けたいなと思っておりまして、何が良いかと思ったんですけども、こういう木刀〔「はすが」写真参照〕があるんですね、これも古いんですがたぶん江戸時代ぐらいと思うんですが。これは「はすが」といいます。雄藩によっては「刺牙」と書く場合もある。あとは腰に差す・挟む加えて「はすが」と言う場合も有る。先端が鎌みたいになっている。これはね馬場美濃野上信房公といって武田二十四将の武田四名臣と言われている方が居られていて、その方が考案したんだと言う伝説が我が家にはある。

それが、上杉軍をものすごく悩ませた。上杉は何とかと言う人に工夫をさせて、何とかという武術を創って「はすが」に勝った。そいう文書が加賀のどこかな、春日山城の方に伝わっている。それが「はすが」で鎧通しです。武田の騎馬武者は大きい槍とか馬のイメージでしょ、勇壮に戦うイメージです。実はそうじゃ無かった。殆どが雑兵の人たちが走って行って、まず太刀打ちをしてから、直ぐに太刀を捨て「はすが」で刺し殺すという流派なんですね。ですから組み討ちです。私も小さい頃学んだ時に文書があるんですが、首の取り方なども具体的に書かれてあり非常に気持ちが悪かったことを覚えたいます。例えば首を切って切れない時は、「はすが」の先端を胸に刺して足で踏め、そうすれば首を取れるますとそういう事がちゃんと書いてある。非常に昔は戦というのはほんとに大変な事だったんだな。ほんとに今の時代に生まれて良かったと思っているところなんです。

先ほど先に言わないといけなと思ったんですけど、真田がいろいろ計略を用いて、いろんな方を逃がしたということで、岡林さんにたぶん真田の跡もあるはずですよ。ちょっと探してみて下さい。と言う話をさせて頂き、そうしましたら有った有ったということで、真田様の墓が香南市山田にあり、お参りに行かせて頂いた。私は墓前で涙が出てきた。私も薄ら聞いていてほんとに有ったんだな。皆さんも是非香南市山田に行かれるときは、ちゃんと「真田じゅしろう」というお墓があるんですよ。系図も有るらしいんですよ。だんだん明るみにでてくる時代なのかなあと思っていまして、すごく感動しているところです。

「はすが」の使い方なんですが、普通忍者って、跳んだり跳ねたりするイメージですが、「はすが」地味なものを使っていたんです。戦だったら刃を上にして腹帯に差して持っていた。手に紐みたいな物を付けて使います。いざ旅人の格好をして腰に差していたら怪しいじゃないですか特殊だから、左腰に差しておけば見ないっていえば見えない。やっぱり袖に隠たりするんですね。後ろ腰に差して隠したりすると分からない。

もっと分からない武器がでてくるんです。これが忍びの者の真骨頂だと思うんですけども、例えばこれが「手の内」〔写真参照〕で、携帯することがある。普通刀で斬りかかられた場合は懐に入って投げますが、本当に余裕が無い場合は「手の内」で刀を一回受けて、手

で受けると切れるので「手の内」で一瞬はじく。連続して「手の内」急所を刺す。こんな隠し武器「手の内」は両端に刃がついたものもある。

はすが

手の内

手の内で刀を受ける

あと坊さんに化けるというのがある。甲陽流の伝書に「変幻可視」てね、いろんな姿に化けるというのがあり、特に坊さん化ける。修験の修業も怪しまれないで出来る。

山の中の歩き方〔写真参照〕非常に狭い所の歩き方がある。この歩き方も面の広さを測っているんです。杖何本でいくつか測る。お経に合わせていくと、お経何巻でどのくらいの広さか分かる。そうやって坊さんが大挙してどっかの城下町を歩いていると、3 人だったら中間の値をとってだいたいどのくらいの広さかわかる。戦う型披露〔写真参照〕。横に払う事は無い、木などに筆禍かちゃう。森で木が生えているので型は前後真っ直ぐの動きとなる。

こういうものの技が中心になって薙刀にも使える。これわかりますか枝打ちに使うもの。結局お百姓さんに化ける〔写真参照〕。何か有ったときに戦い。またお百姓の姿に戻る。こういうちょっと面白い物が吾妻に伝わっている。これは何で伝わっていたのか。すべてが全てやはり一族生き残であったり、情報を持ってきたりとかそういうためなんですね。その大一原因は武田の血脈がね、高知に来て土佐に来てね、これだけのたくさんの人たちにその血が流れいるというのは、脅威だと思っています。皆様のご親戚やおじうえさまなどにひょっとしたら言わないで、そういう現象を言っても馬鹿にされるからだとかで、ひた隠しにする方も居られると思いますが、私も実は今 50 才なんですけど、37 才までは忍術に関しては絶対に言ってはいかんと言われてきた。誰にも言っていなかった。息子が生れまして、伝えないとな～と思ったときに、まあ好運にというか先代たちがバタバタと死んでいったんですよ。それで怒る人がいないんで、まーじゃー言っても良いかなーてな感じで、昔の物を少しずつ出し始めたということがありまして、同じ様に昔からのものを大切に守っておられる方が居られると思うんですが、これから大崎玄蕃様といわれた。武田勝頼公の御実績というのがもっともっと世に出ていく時代だと思います。今日は本当に素晴らしい一日に、こうやってお呼び頂いて、拙き者が演武をさせて頂きこれ以上嬉しいことはありません。また今後とも宜しくお願い致します。

山道の歩き方

戦う型

お百姓に化ける

(5)　講演会　岡林会長　赤字：講演会追加説明

① 勝頼公が土佐に来た経緯

風林火山　武田信玄武田 24 将･･･甲斐武田を継いだ武田勝頼公は土佐に蘇る。

天正 10 年 3 月 2 日新府城に火を掛け、一路真田の郷を目指す。

岩櫃城の麓に、勝頼を迎えるための館「潜龍院」が建てられた。今も屋敷跡が残る。

一方、替え玉となった影武者(高坂某)は、勝頼の身代わりとと成り自害して、天目山を武田家終焉の地とした。(系図には裏切りとか小山田氏のことは何も書かれて居ない)

最後まで武田家を支え玉砕した土屋惣蔵、勝頼逃亡を企て策略を手助けした小山田信茂公、武田家の終焉を演出した両名は命を投げ出し優秀の美としたのである。

3 月後の 6 月 1 日未明の本能寺の変「織田信長・信忠」親子が明智光秀に討たれる。

＊明智光秀は同じ源氏の武田を助けた。

一連の出来事の中、勝頼達は土佐に逃亡を企てた。

利根川を下り江戸湾に出、船で駿河湾に入り一路・小山城の龍光寺を目指す。

此処で体制を組んで武田の海賊船で一路土佐を目指す。勝頼達は吉野川を遡上し立川の空石を経由し土佐の植田村西屋敷門田屋敷に入る。

＊と系図に書かれています。全て系図に書かれている事だけを述べています。

また別働隊は船で土佐湾に入ったので有ります。

以上は勝頼公達が土佐までの一連の流れです。

詳細は歴史小説「武田勝頼土佐に生く」を読んで下さい。

これらは、武田家系図に出会ってから今日まで調査研究した成果です。

従いまして根拠は全て、手元に有る武田家系図(写真集)です。現物ではありません。

＊たぶん高知市内のどこかに有るはずなんです。

しかし、この系図が一級資料に匹敵するか否かは中身を吟味することにあります。

今回新たに発見があり、今回の本の出版にこぎ着け、講演会を開くことに成りました。

前段の述べた逃亡事象は、以下の武田家系図の記述から解読しています。

1,　上野国利根川軍大谷に退き「左内」と名乗る。信勝は小五郎と名乗る。

2,　長岡郡立川の峰際空石⇒植田村西屋敷⇒門田屋敷と移る。

3,　土佐吾川郡安居村樫山に移り･･大崎の今村･･川井土居天正 13 年 2 月 8 日着住居と記述から。

4,　新たな事実とは、勝頼の曾孫「寺村兼」の事で、谷泰山の祖母に成る女性です。

系図の記述から

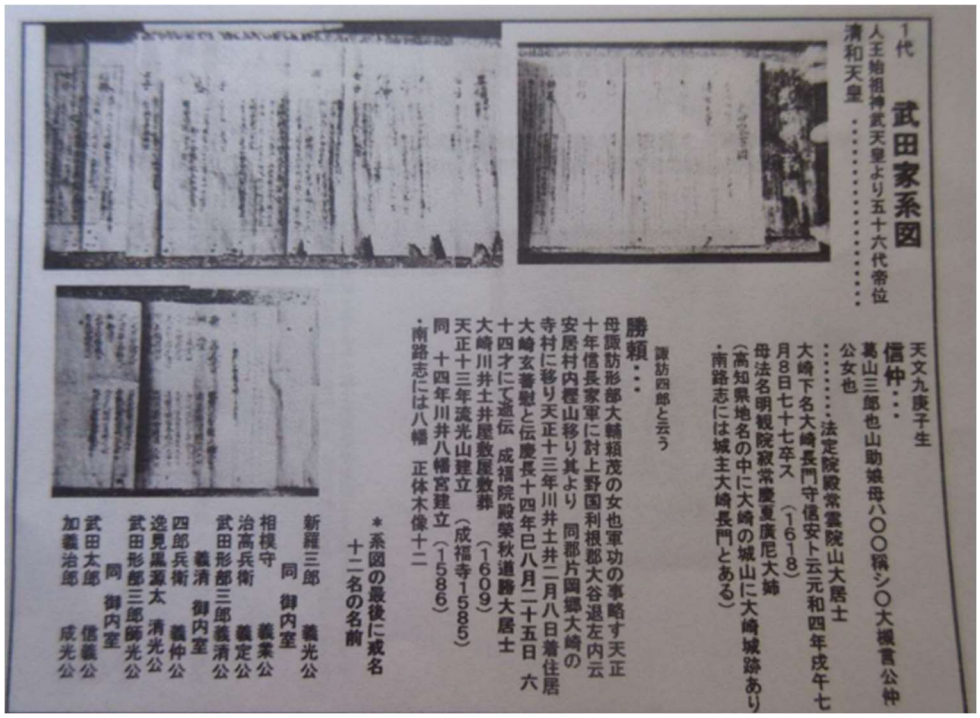
「慶長十五年庚戌(1610)出生・父病死の砌漸く十三才也之に依り母親は池左近進に預け(連れ子が池きさ？〔会長推測〕) 後信房の妻の兄枝川村住人寺村彦左衛門清次方に養育を頼みし所外姓の方に掛り人として居り難く思いしや家名を隠し枝川村百姓源右衛門と申す者権親として彼の娘と称し寛永元年(1624)甲子潮江の谷氏に奉公し

＊　以前谷氏はどこにでも居るしか思ってなかった。？？？実は 1624 年にそこの子供が生まれています。その妾人の年にですね。その子供が三男の谷じんざ？

同二年には中山氏へ奉公し終に中山興市兵衛直秀の准妻となり男女 4 人産育す慶安二年 28 才にて暇を乞い清次の妻となって居りしが慶安四年又中山へ行き終に後亦枝川へ帰り彦太郎清秀の妻となる」

∴ 系図にしては長い文書ですが、兼姫は波乱に満ちた生涯だと思います。その後の消息が分からないのです。

② 武田家系図　＊系図関係の資料は除く



1代　武田家系図

人王始祖神武天皇より五十六代帝位
清和天皇……

天文九庚子生
信仲…
葛山三郎也山助娘母八〇〇稱シ〇大槻言公仲
公女也
……法定院殿常雲院山大居士
大崎下名大崎長門守信安ト云元和四年戊午七
月8日七十七卒ス（1618）
母法名明観院殿常慶夏庚尼大姉
（高知県地名の中に大崎の城山に大崎城跡あり
・南路志には城主大崎長門とある）

諏訪四郎と云う
勝頼…
母諏訪形部大輔頼茂の女也軍功の事略す天正
十年信長家軍に討上野国利根郡大谷退左内云
安居村内榧山移り其より　同郡片岡郷大崎の
寺村に移り天正十三年川井土井二月八日着住居
大崎玄蕃尉と伝慶長十四年巳八月二十五日　六
十四才にて遠伝　成福院殿榮秋道勝大居士
大崎川井土井屋敷屋敷葬　（1609）
天正十三年流光山建立　（成福寺1585）
同　十四年川井八幡宮建立（1586）
・南路志には八幡　正体木像十二

＊系図の最後に戒名
十二名の名前

新羅三郎　義光公
同　御内室
相模守　義業公
治高兵衛　義定公
武田形部三郎義清公
義清　御内室
四郎兵衛　義仲公
逸見黒源太　清光公
武田形部三郎師光公
武田太郎　信義公
加義治郎　成光公

八幡宮神官系図

川井（大崎）八幡宮神主系図（天正14年～現在）

土佐国香川郡片岡郷大崎村川井に鎮座
正八幡宮天正十四年丁亥六月十五日
願主　大崎玄蕃頭源勝頼建立
神主　岡林甲斐守源勝貞

右八幡宮御神体十二幕木像安置之
神鏡　一面
幣　一本
奉納有之
初代　岡林甲斐守勝貞

初代勝貞より二右京太夫勝興まで六代の閑代々と同外土屋
歴数の点の上に山根住すこの時家譜失し旧伝の書簡助く焼失
す中にも金銭　莫不動　軸　奇妙を聞すと伝えり
恵より歴数を下に録

明治十七年十二月十三日教導職
義補任命同年八月十二日神官御慈許
昭和二十八年文化庁新宗教法人法の
宗教法人「長生教」の認可を受ける

二十一代　岡林　祝
二十二代　岡林正神
二十三代　岡林正喜
二十四代　岡林麗壽
二十五代　岡林誠

これは神官の系図になります。ここにちょっと日付とのちの時代に書かれたと思うんで

すが、願主が大崎玄蕃源勝頼建立となっております。神主岡林甲斐守勝貞　＊会長の先祖

＊　本日の司会をやっているのが八幡宮の二十五代目です。＊会長の御子息

＊　左の方に私の名前がでてくるんですが、こういう資料は武田系図と同じように持ってきていただいた方が言っていた。

本邦初公開になるかも知れません。大崎八幡宮の御神体です。先月文化財保護委員会の方が来られて調査をしました。文化財を十数年ぶりに見てみようとやりました。これは以前撮った写真。今から 16 年位前の御神体写真。先月撮った写真は、又今度この後見て頂きます。御神像と鏡の二つは仁淀川町文化財に指定しております。

十数年前に会を立ち上げてから、からいろんな行事をやってきました。いわいるイベント。勝頼さんの名前を出すために何かイベントでもやらなくてはいけない。ちゅことで町興しの一環で始めました。？？？二十数年ぶりにみこを立ち上げてあーでもないこーでもないと言った記憶があります。

スイーツフェスなど、いろんなことをやってきました。

写真は山梨へバスツアーで行った 10 年ぐらい前、この時は町長と言うか村長がバス代を 50 万円ぐらい出してくれた。実は山梨からお客さんがどんどん来るし、我々も一回行ってみようということになった。

スイーツフェス

山梨へのバスツアー

その時に迎えてくれた方ですが。背の低い方が会長さんなんですけど、昨年亡くなられたようです。あの時と同じ法被を僕は着ていますけど、ライフスタイル、ガイドをやるときのスタイルです。その時にここで、安居神楽を奉納させてもらいました。前で舞っているのは司会の岡林で、太鼓を叩いているのは私(岡林会長)です。あそこで安居神楽を出来ることが一つの喜びでした。

山梨の会長

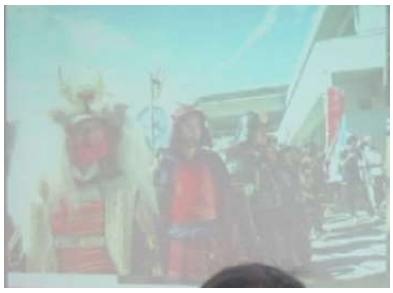
安居神楽

十数年前の第一回武田の里サミットというのを行ないました。第二回を山梨でやらなくてはいかんと我々の高木さんという人物がいたんですが、その方が「生田目の陣」という企画書を持って訪れて、四国と中国地方一緒に武田の末裔を探して回りました。そ

の時の企画書が「生田目の陣」だった。彼が亡くなったのでそれを引き継ごうという。この時駆けつけてくれたのが、丸亀城鉄砲隊です。左端は勝頼公に扮した甲州市の市役所の人じゃないかな？観光協会ぐらいかと思う？信玄の甲冑を着ています。中の男の子は今現在武田家の末裔の男の子にお願いしました。

武田の里サミット

丸亀城鉄砲隊



甲州市甲冑隊

看板になるのは元親公のほこう？からはじめてくれました。

今はこういうガイドを致すのが私のスタイル。ですけどガイドの方が実は実績です。だいたい僕と一緒に回ると「なるほどね」と皆かえってくれます。ですから地道ではありますが、一つ一つ実績を積み上げながらやっているところです。

玄蕃踊りと歌(会長が唄って見せる)

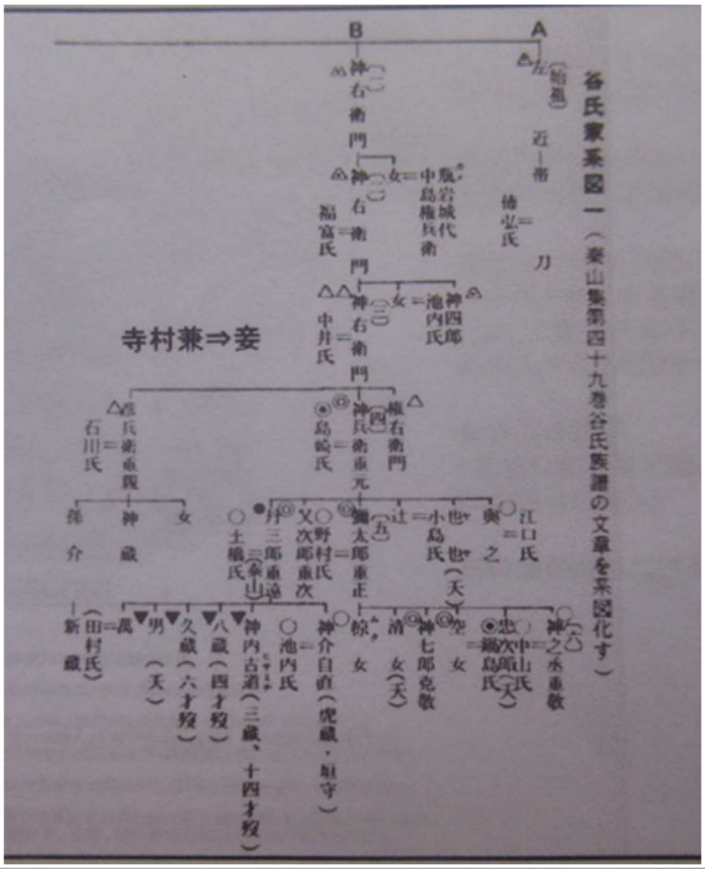
まさいくるガイド

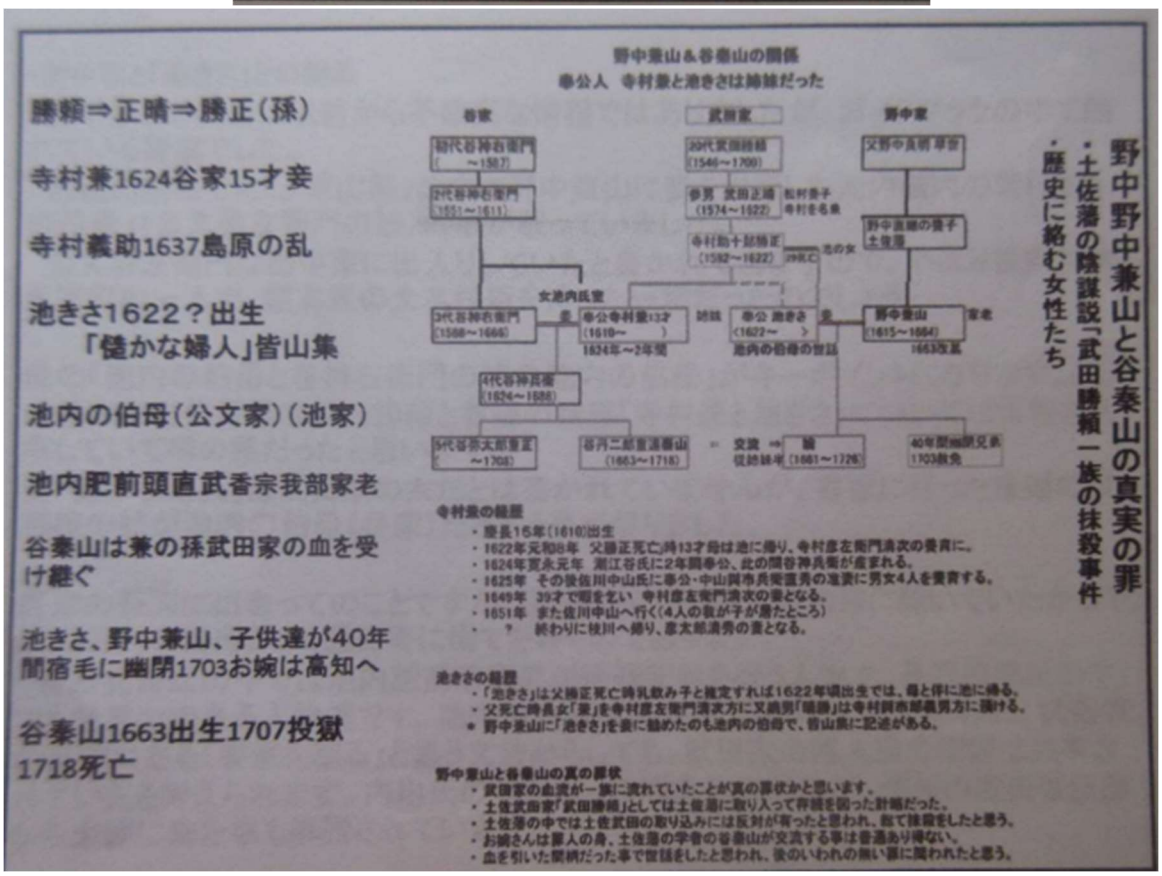
③ 野中兼山と谷泰山の真実の罪　＊以下　講演会案内資料

伊与久様の講演・演武 20 分の予定が倍近くになってしまったので、飛ばし飛ばしになったので、内容を知らないと分からない内容でした。

・ 谷家との関係「兼姫」

これは谷家の系図？？？副会長の承諾を得て掲載している




谷家との繋がりについては、武田家系図に勝頼の「参男正晴⇒孫勝正⇒」曾孫「兼姫」が父病死の時(十三才)枝川村寺村彦左衛門清次に養育に出された事が出てきます。

正晴は、縮毛平田寺山赤木山延光寺にある寺主の家、松村右京秀春の様子に入り「松村六大夫」を名乗っていて、のち現仁淀川町寺村に帰って「寺村六太夫」を名乗ってい

ます。
　この寺村家は、勝頼の嫡男信勝、その子の孫に当たる嫡男信房の嫁が枝川村の寺村家から来ていまして、土佐武田家の嫡流義男と晴郷が生まれています。
この義男と晴郷は天草の乱(1637～1638)に出張で出向いている事が系図に書かれています。出張ですので、土佐山内藩に依って派遣されたと思います。
　この寺村家に養育に出されて居ますので、従兄半の信房の、寺村家の嫁方に養育に出された事になります。そこで二年ほど養育されてから、十五才になった兼姫は 1624 年「家名を隠し枝川村百姓源右衛門と申す者権親として彼の娘と称して寛永元年甲子潮江谷氏に奉公」にと系図に書かれて居ますが、どうも妾だったと思われます。
　谷家は三代谷神右衛門・当時 36 才の時だったと思われます。
谷家には 1624 年に妾に入っていますが、谷神右衛重元は同年に生まれていますので、系図から見ると中井家から嫁を貰った様に成っていますが、長男権右衛門は氏名と出生が不明で、弟彦兵衛重親は生死年月日が不詳に成っています。この兄弟両名は、家督を引き継いでいません。
　寺村兼には直ぐに子供が出来て、同年 1624 年に谷神兵衛重元が生まれていますので、此の年の初めに嫁ぎ、その年の暮れには生まれたことに成ります。
　此の谷神兵衛重元の参男が谷泰山で、後年明治に活躍する谷干城も同じ血筋の系図に出てきます。
　ところが、兼は二年で暇を取らされ 1625 年佐川の中山氏に奉公に行きますと言うか、出されたが本当だと思います。子供を残して？
後日、武田の血を引き継いだ婦人だと解ったのだと思います。
　中山與市兵衛直秀の准妻、つまり妾として嫁いだ事が系図に出てきます。
　此処では、男女四人を産み養育していますので、女として成熟した女性だったと思われ武田家の血を引き継いで子供達が生まれています。
　何れも武田家の血を引き継いで居る事が、その後の改易と深い繋がりが有った様です。この事がこの後に起こる事件えと繋がって行くのであります。
　中山氏については、信勝の孫「晴郷」が中山の土居に養子に入っています。
この時代天草の乱に兄義男と共に参戦しており、兄(義男)は腰に鉄砲玉を受けて方端となり跡目弟「晴郷」に譲っています。
　この島原の乱に参戦したことが嫡流の系図に書かれて居て「勝頼の曾孫で在ることを名乗れば戦いに出ることも無いのに」とか書かれて居ますが、この時代土佐藩では既に武田勝頼の身内と名乗れない理由が有った様です。

・ 野中家と「池さき」との関係
　野中家との関係は以前から不確実な情報ではありましたが、ガイドブックの中で触れている程度でした。
　最近の情報でえた「皆山集」の中で野中兼山に妾を世話した池内伝内の妻「池内の伯母」(公文善左衛門の妹)の事が載っていました。
　公文善左衛門は野中家に出入りしていたと書かれて居ますので、やはり香宗我部氏家臣の一人で、信玄堤の土木技術を持った一族だったのでしょう。
　此の「池内の伯母と谷神右衛門の妹の池内の伯母」キーポイントになります。二人の

池内家の伯母達は武田勝頼と曾孫の娘達「寺村兼と池さき」については情報を共有していて噂の種だったと思います。
妾「慥かな婦人」は武田家の女だとは書かれていませんが、谷家に行った兼姫の旦那様の妹が池内の伯母(谷家)だと言う事が解りました。
谷家の系図に出会ってのことですが、兼姫の旦那の妹が池内家に嫁いでいたからで、後の池内の伯母として歴史書に出てきたものであります。
　香宗我部氏の中では池内肥前頭直武が筆頭家老を行う人物で、長曾我部氏の中でも発言力のある人物達です。池内の伯母達は発言力が高かったと思われ、武田家の系図にある「香宗を頼る」と言う文言からしても、武田家の落人達の情報は共有されていたと考えられます。内川氏の資料は、馬場氏や内川氏が、信州の武田家臣団から土佐に来た事も解説されています。
　関ケ原までは、武田家の土佐生存説は家中でも共有された情報であります。
池きさ の素性については、武田信玄⇒武田勝頼⇒武田正晴⇒寺村(武田)勝正⇒女子兼姫・寺山晴勝(義助)・池さき(父勝正亡き後、妻は池に預けられると系図から)と成っております。武田家の血を引き継いだ流れでありますが、池さきは勝頼の曾孫になります。
　父勝正は二九才で亡くなり、母親(妻)は池左近進(親元)に預け「系図から」(この時幼児きさ を連れて池に帰ったと考えられます。
皆山集の一節宝暦 13 年(1763)末正月　池内真友記言い伝えを書く。より抜粋
「野中伝右衛門殿のご息女御エン様(1661～1726)は、安履亭と号す。朝倉にお住まいす。お上より御扶持を下し給い、博学大智のお方なり。池内一家へ故あるよしにて度々御入りになられる訳を左に記す」
１　曾祖父の池内伝内の妻は公文善左衛門の妹。此の公文氏は、‥‥
「ある時、(区分)善左衛門殿おおせられ候は、「慥かなる婦人」の奉公人を肝いり候様仰せられる。善左衛門が申しあぐるはわたしの妹があり。池内伝兵衛・池内小左衛門の伯母です。是を差しあぐると申すべきかなと申し候えば、その方の妹の儀は、たしかなる事およぶべきか所望とおおせられ、直ちに奉公に入る。

・ 谷家・野中家両家を繋いだ池内二人の伯母
　以上は、野中家に妾を世話したのは公文家から池内家に嫁いだ池内の伯母です。
一方、谷家から池内家に嫁いだ兼姫の嫁ぎ先の伯母達。
両者は同族の池内家の伯母達で共に武田家の血脈を引く息女(兼、きさ)を知っていたと思われますが、兼山は其の事を知っていたのかどうかは不明です。
　池内の伯母(公文)を信じての奉公人だったと思いますが、後に武田勝頼の曾孫だった事を告げられたことによって観念したもので、直ぐに辞表を出しています。
　系図や歴史書に名前が出てくるこの女性達は相当実力の有る女性だったと思われますが、池内家その物が香宗我部家の家老職を行っていたのですから名声は高かったと思われます。
　取り別けて、武田家系図の勝頼欄には「香宗を頼る」と記述が有ることからも香宗我部家の家老だった池内氏の伯母は、甲斐武田の当主だった武田勝頼の内情を良く知った人物であり、相当の実力者であったことは間違い無いです。
　また香宗我部氏は、遠祖は一条次郎忠頼の子「秋通」が家臣の秋家に補佐されて 1193

年、源頼朝に因って土佐に地頭として派遣されたもので、土佐では香宗我部を名乗った清和源氏の血を引く由緒ある家柄の部族です。
長男(次男)である一条次郎忠頼は、父が甲斐武田の元祖とも言われる武田信義公ですので、跡目は継いでいないですが、甲斐武田の宗家と言ってよい家柄でも在ります。

## 改易と転府　土佐藩の改易？

・ 香宗我部氏の池内家とは

　さきの資料で紹介した「左衛門佐様御支配御家臣連名」香宗我部家家臣団名簿の最後の蘭に天正十六年戊子三月二五日　池内肥前頭直武　花押
中山田左衛門佐様取次「堀輿平殿　金子助右衛門」宛で終わって居ます。
内容については、四組の部隊編成かと思いますが、四段に別けて氏名が列記されています。資料の天正 16 年は地検帳の検知とほぼ同じ年なので長曾我部氏の全盛期に作られた香宗我部氏名簿で関ケ原の戦い 12 年前の名簿です。

　此の家臣団の筆頭頭が池内肥前頭直武という人物が香宗我部氏、また長曾我部氏の中で強い発言力を持った氏族だと言う事が分かります。

　また皆山集に出てくる「内川氏・公文氏」も香宗我部氏の家臣の中に名前が出てきますが、此の人物達は野中家に出入りしていたと書かれて居ますので、小説「婉という女」の中で野中兼山は土佐の下士を多く取り入れて年貢などの取り立てを行っていたようで、土佐藩では大きな勢力を成し、力を付け、謀叛を企んでいるのではと疑いが掛かっていますが、甲斐からきた武田勝頼の家臣だった馬場氏や内川氏その他の武田家臣達の事を指しているのだと思います。
此処で武田勝頼の一団は、数百人単位で土佐に入植していると想像ができます。

　大きな勢力だったと思いますが、其の武士達を優遇して野中兼山は囲い込んだとしたら大きな勢力になったで在りましょう。

　野中兼山の罪状の一つだと説明されていましたが、武田勝頼が舎弟を含め土佐に根を張っていることは、徳川幕府にとっては政敵とみなされますが、此は事前に幕府に勝頼実子などを含め闇に葬る約束を幕府に取り付けたのだと推測しています。

　野中兼山は失脚後三か月後に死んでいます。更にお家は改易となっているのに、なぜ、子供達を四十年間其れも男子が全員無くなるまで幽閉されなければ成らなかったのか、大きな疑問が生じます。

　更に、本妻と他の子供は罪に問われて居ないのはなぜなのか
紛れもなく武田の血を引いた妾(池きさ)の子供達だったことです。

　幽閉先で野中家の嫡男、桑継(清七)が無くなったとき土佐藩では検死官が来て居ますが、其れは分かりますが、わざわざ幕府に報告したと書かれて居ますが、なぜ幕府に報告を行う必要が有ったのでしょうか。

　野中家は土佐藩で改易され取りつぶされた一介の庶民の清七の死を、幕府に報告が居るはずは無いと思います。

・ 幕府の大名統制

　長曾我部氏の時代、表には出せなくても武田の武将達が長曾我部氏に加勢していた時

代(天正 10～13 年慶長 5 年関ケ原)でも有りますので、落ち武者などの受け入れは普通の出来事だったのでは無いでしょうか。

ところが、時代が関ケ原後になると、山内一豊が土佐に入ってからは事情が一変します。徳川幕府から見れば武田家は政敵、ましてや信長と家康の連合軍で、長篠の戦いや甲州征伐で取りつぶした相手方で在ります。土佐藩の筆頭家老を行なっていた野中家と、土佐藩の藩士学者まで行なっていた谷家、両者は武田家と血脈を引いた藩士となると話しは別。

上記の案件が徳川幕府に知れて一番困るのは、土佐の藩主は元より家臣一同みんなでは無かったのではないでしょうか。

土佐藩では改易と転封は経験が無かったのですが、幕府の改易と転封について記憶しておく必要がありますので次に説明します。

江戸幕府の諸大名、直参旗本、御家人の所領や役職の与奪権はすべて将軍にありました。代替りで新将軍の継目安堵の判物、朱印状を発給する儀礼によって、諸大名の所領支配権の継続が再確認された時代です。

幕府の大名統制における最強手段は、改易と転封であります。

改易とは、御家断絶、大名の領有地を没収して、家督を取り潰すことであります。

江戸幕府による大名の処分は、三代家光の時代までに多くあったといわれています。

## 徳川家　将軍の権威！！　大名の与奪権は絶大な力　土佐藩は切り抜けた案件！

「此の紋所が見に入らむか！」映画でおなじみの「水戸黄門」の一場面のセリフです。

「先の副将軍・水戸光圀公で御座るぞ、一同頭が高い！！」と言えば、大名でもひれ伏したのでありますから、徳川の御威光は天下に及んでいたので有ります。

この話は、黄門さんが全国を旅して人民を困らす政治をしている大名を懲らしめる筋書きですが、外様大名なんか何時も震えきっていた時代で有りました。

全国に隠密を配巡らして、徳川幕府の安泰を第一に、将軍は大名達が力を付けることを恐れていたのでありまして、幕府転覆の不穏な動きがあれば改易を行ってきたのです。

一例に、「由井正雪の乱」が有ります。そんな中、土佐藩では野中兼山の偉業で石高が、二四万石から五〇万石まで増えていたと言われていますので、土佐藩では幕府のお裁きが気になっていた時代でも有りました。

武田勝頼を匿った土佐藩ではとても心配をしていたのだと思いますが、勝頼は 1609 年に亡くなっていますが、足元の家臣達の懐に入り込んで未裔達が潜んでいたことが幕府にばれることをとても心配したに違いありません。

江戸時代、世嗣断絶、武家諸法度の違反が三分の一をしめ、強い統制と処分を行なう武断政治が敢行されたと言われています。世は徳川幕府の時代、大名の改易と転封が吹きまくった時代でも有ります。武田勝頼一統を囲っていたと考えれば、勝頼の土佐生存説が幕府に解れば改易の心配が有ったと考えるが常道、土佐藩の重臣達の中では相当もめた問題であったと思います。

因みに、江戸時代の幕府が行った改易は 129 大名家になったと言われ、転封は 93 大名家だったと言います。

・　野中兼山の偉業

幕政の改革を行い藩の財政を潤した人物です。こんな大きな事業を成しえた兼山が犯した罪を兼山一人に押しつけるのもおかしい、藩の責任のはずです。

ましてや役人が百姓達をこき使うなんて言うのは何処にでも在る話しで、野中家だけの改易になる理由にはならないと思います。

こじつけで有ったと思いますが、武田家の事、特に勝頼の土佐での生存は江戸幕府から見れば謀反の兆しが有りとみなされ、土佐藩自体の改易に繋がる大事件ですので明文化は出来なかったのでは無いでしょうか。

谷泰山の案件も同じような理由が関係していると思っていますので今一度問いかけてみたいと思います。

谷泰山「谷丹三郎重遠」の墓と書かれた墓所の看板から。

「無罪の罪で、天をうらまず」と、まず無罪ではないと思います。

本人達・家族・土佐藩の奉行達は、谷泰山が武田勝頼の血を引いた家系であることは承知していたとすれば納得がいきます。

政敵である武田家の子息達を幕府は許すとは思えません、藩内に、しかも藩士の其れも身分の高い人達の中に潜んでいたのは断罪の理由でしょう。

美香史団談会の資料から、罪状不明の冤罪ですが「真意は知る者ぞ知る。何時の日にか晴日たらん」と罪に服しました。

## 「己の血の流れには逆らえなかった」　谷泰山の手紙から

子供達が縮毛に幽閉されて 23 年後の貞享三年(1686)夏、谷泰山が縮毛を訪れています。この時役人に会わせていただけ無かったと言われていますが、この時点から事件は広がったと思っています。お役人は土佐藩邸にすぐさま報告したはずですから役人の調査が始まります。

土佐藩は聞き取り調査を始めればまだまだ生き証人が居たはずです。泰山と婉さんとが同じ武田の血を引き継いだ親戚同士と言う事は直ぐ分かったと思います。

泰山の祖父達と、佐川の中山氏や枝川の寺山氏からも事情徴収されたと思えば、彼らが後年改易されて居た事からも明らかでしょう。

谷泰山の子供達が訳の分からない死に方をしています。

時期は谷泰山が縮毛の野中家の遺児達を訪れた時期と重なって見えます。

六人の子供の内四人が若くして他界しています。折しも野中家の縮毛での男子達が亡くなるのと同時期です。

系図から見ると「長男は夭(若く没)・二男久藏(六才没)・三男八蔵(四才没)・四男神内古道(三才・十四才没)」と、末の神介自直だけが生き延びています。

土佐藩の手が伸びたとは、言いがたいですが、疑ってみたくなります。

(6)　トークショー

トークショウ　左から坂本氏、片岡氏、中津氏、小俣氏、岡林氏(花の後)

① コーディネータ：坂本世津夫愛媛大学教授(地域連携コーディネーター)

高知の出身下士（長宗我部の武士）ですが、山内家(上士)が高知に入ってきても、同じ所に住んでいた。

概要：長宗我部家は土岐氏(源氏)より三代にわたり嫁さんをもらっている。土岐一族の明智光秀は織田信長を滅ぼし、清和源氏の武田勝頼の土佐入りを助けた。

② パネリスト：片岡昌一氏　郷土歴史小説家

岡林会長の同級生。元が外国航路航海士、その後起業・小説

横浜に住んで１回/月高知に戻る生活。岡林会長と会って勝頼公の話が盛り上がり、「最後の武田」を出版することになった。

概略：長宗我部は水軍が無く欲しかった。長宗我部の水軍が出来たのは、武田水軍で、その前は沼津にあった今川水軍です。武田の時は穴山の配下で大井川河口の吉田に有って、勝頼が高天城を攻めた時の小山城の補給基地となっていた。そこから武田氏と水軍と片岡氏(パネリストの先祖)は土佐に移った。山内家が土佐に追われた時は、開梱して土佐に住み着いた。片岡というところが有る。

③ パネリスト：中津攸子氏　千葉県名誉県民・女流作家・日本ペンクラブ

戦時中山梨県北杜市に疎開したこともある。「武田家の女達」などの本があります。今回で４回目の来町。会場前の話では、とにかく興味があればまず書き始める事。間違っていれば後から訂正すればよい。懇親会では、数学が得意で歴史が好きですが教えるのは国語？だったそうです。

内容：

- 三枝夫人は二十四将に三枝がいるのでおかしくはないが、私の考えでは北条夫人ではないかと思う。北条征伐もあったので、北条は使えない。信虎の 34 人の優秀な家来に虎の字を与えた。その中で三枝土佐守虎吉から三枝を使ったのではないか
- 日本記者クラブで武田信虎の話をしたときに、ノーベル賞を取られた大村智さんが聴衆に居られた。大村さんは武田の里の韮崎出身、湯川秀樹の湯川家は兵庫県の武田家子孫です。武田家にノーベル賞受賞者２名がいるのはすごい事です。
- 武田関係書籍に全国 22 県が載っているのに、これだけ史跡が残っている高知県の記載がない。かろうじて岡林氏・片岡氏など３名が書かれているが、問題点を提供する程度

なので、町興しのためにも、もっと詳しく武田勝頼の事を書いて欲しい。

・ お願い。出筆文化は終わって、本が売れない時代なので全部自分で費用を出さないと出版できない。本を出すと分かった時には１冊購入してください。それから武田勝頼が新府城をでて、群馬の方に行って、岩殿城の方に行って、武田水軍を使って高知に来るそういうのを書くつもりでなので宜しくお願いします。

④ パネリスト：伊与久松風氏　真田忍者研究会会長、真田忍者末裔

内容：

・ 町興しに付いてお話します。群馬県東吾妻町と中之条町が吾妻川を挟んで両側にあり、そこが真田忍者の里といって最近発信を始めた。それまではその地域の歴史愛好家・郷土史家の人たちが頑張って、確かに軍記書・歴史書に加沢記や吾妻こせんぞくという地方紙の中には忍者の具体的な記録があり。割田下総守重勝公は忍術古今無双と書いてある。また真田丸の時には吾妻衆が取り上げられて、出浦対馬守で真田唱幸の右腕での忍者で登場している。出浦の右腕で私の 14 代前の先祖が忍者働きしていることが本家の系図にありまして、ほんとなんだと感激した。

・ 今までは歴史家の指摘を受けたくないこともあって、少し腰が引けていたが、一人町興しの中心人物がいて、本当か嘘かは置いといてここにこれだけの物的証拠、状況証拠があるので、これで遊んでやろうということを言い出した。それに私たちも乗っかって徐々に忍者ロマンのふるさとで町興しをしていた。一級資料に匹敵するような他にない、たとえば伊賀にの甲賀にも無いような忍者の伝統が残っていたり、あっちに有ってこっちに無いものもあるが、あっちには無くてこっちにあるものも一杯ある。

・ 逆転の見方で見ると、この地域では武田伝統、武田というものに誇りを持っている人たち、武田を名乗る人、武田から変名した名前をたどっていくとある人が、甲斐はこういう人はほとんどいない。ここに有る強み、これだけある伝承は他にない強みだと思う。史実という見方ではないところを強みにして「武田ロマンの里」でもよいと思います。例えば東吾妻町であったり、大月の方であったりいろんな武田を巡るロマンをたどれるようにすると全国の歴史ファン方に、また小説家、漫画、演劇などに取り入れていければいいんじゃないかと思います。そうやってみんなで賑やかしていくことが大事だと思っております。何か協力できることは、喜んで協力します。

⑤ パネリスト：小俣公司氏　小山田信茂公顕彰会会長

内容：

・ 郡内小山田氏研究会が７・８年前に立ち上がりまして、その主宰をしてくれた方が　松本憲和先生という方で、本日は体調不良で欠席のため私が代わりにお話しさせていただきます。

・ ３年前に小山田信茂公顕彰会に、発展的名称変更をして発足した会です。

・ 真田丸で温水さんが素晴らしい演技で演じた小山田信茂公について、私は NHK に電話で 40 分文句を言いました。私たちが一生懸命活動(世間の間違った認識を解消活動)して、やっとそうゆう部分が、少しずつ薄紙が剥げれていくような時に、迫真の演技で素晴らしかったのですが、私たちの持っている感情と、或いは現状と違うので文句を言いました。私よりもっと素晴らしいことをやってくれたのは、本日観えている折笠さんと

いう方はパソコンでディレクタさんに文句をつけたそうです。ディレクタさんからパソコンに「実はこういう訳で」という返事があったそうです。そういうようなことを基にして、松本憲和先生のご講演、あるいは歴史小説家の夢酔藤山先生という方々のご支援により、市民の方々に活動している。

- 山梨県には国中と郡内(地方)とがあり、国中というのは甲府を中心に盆地のところです。郡内は上野原・大月・都留・富士河口湖・富士吉田こういったところが郡内。ここが、明らかに考え方が違っている。これは天正 10 年 3 月 10 日に信茂公が武田勝頼公を郡内に入れなかったという間違った事実が通説として語られ続けてきている。それを覆しましょうという顕彰会の活動で御座います。
- 少しずつ私たちの活動が認められてきまして、新編・小山田信茂論集(1)～(4)作成させて頂きました。それを境にして松本先生がそろそろ町の活性化に話を持って行って宜しいんではないか。勿論信茂公の事績を研究しつつ、町の活性化に取り組んでおります。
- なぜ信茂公が裏切り者であるかということから始めますと、理慶日記という本が御座います。甲陽軍鑑という本が御座います。たった 1 行信茂が裏切ったという事が書かれているだけで御座います。さらに鉄砲を撃ちかけたという事が書かれているわけで御座います。その鉄砲も松本主宰のれいによりますと、鉄砲を撃ちかけたのではない。鉄砲は勝頼公に付き従ってきた人達に対して、あなた方は勝頼公にいつまでも付いていないで逃げなさいという合図では無いかとのいう解釈をしています。その理由は、理慶日記そのものについては、明治 12 年に東大の辻先生という方があれはまったくの偽作であるというふうに断定したんですけども、近年少しずつまた研究が始まっていて偽作ではないのではという話があるようですけど、私どもあれは偽作だと理解しています。もう一偽作であることの資料が、松本主宰が何年か前に「理慶日記朱校本」という本を京都の古本屋で見つけたんだそうです。その内容の方が、よほど歴史的に内容が、質が、量が充実しているということで、それを基にして顕彰会活動をしています。それを研究して論集を発行している中で、山梨県の長崎県知事さんが、どうも小山田顕彰会の論の方が解釈するうえで、より合理的ではないのかという考えのもとに、昨年武田信玄公生誕 500 年祭のおりに、県でもって「信茂と勝頼」という DVD を作ってくださいました。これは YouTube で 1 ～5 までだったと思いますが無料で見ることが出来ます。ただ今月の 15 日をもってそれは無くなるとの事を目にしましたので、パソコンの中でもって見て頂けたら有り難いかな。このように思います。
- まとめといたしまして、私たちはつねに信茂公の行ったことは裏切りではないという胸にしまいながら町興しということで、松姫様を見送ったであろうと思われる地が私の中ではあります。されが、曹洞宗岩空山威徳寺さんの前でもって松姫様を信茂公は見送ったんじゃないかと、それから信茂公は甲府に行って信忠の前で則武三太夫という方に首を斬られた。今町興しをしていく上で 3 月 8 日先週の土曜日ございましたが、威徳寺さんの本堂をお借り致しまして、八王子の新照院さま松姫様の菩提寺でございますが、そこから西村住職様と松姫様のご位牌と信茂公の御位牌を前に、信茂公並びに松姫様の合同慰霊祭開かせて頂きました。内容的にはいたって簡単です。大月市の老人大学というのが御座いまして、そこで水墨画教室を指導している方のグループが五人ほど作品を出品して頂きました。仏画で御座います。山梨老人大学の短歌部の皆様からご協力を戴きまして奉納という形で短歌を 12 編本堂の窓に飾らして頂きました。それらをあまり

PR していなかったんですけど、当日は晴天に恵まれまして、お陰様で約 80 人から 100 人の方がお焼香に訪れて頂きました。その内容につきまして毎日新聞山梨版記事に載せて頂いたものを、昨日岡林会長のところ、あるいは町長のところへお届けさせて頂きました。目を通して頂けたら有り難いですけど、パソコンでもスマホでも「小山田信茂ブログ」入力して検索して頂きますとブログが出てきます。それを見て頂ければ小山田信茂公顕彰会がこんな活動をしているんだなという事が分かって頂けますので、少々長くなりましたが、ここに座らして頂いていることと、自分たちの顕彰会のことをご紹介させて頂きました。

⑥ コーディネータ：坂本教授

岡林さんと初めて会ったのはですね 20 年近く前に NPO ファンド？というのがあって、そこでですね町興しを「武田勝頼土佐の会」で、その時は吾川村でしたけども、やりたいと言って、ワーすごい取組みで、何十人か発表した中で最高の役者じゃ無いかと思われるほどでそれから 20 年以上取り組まれている。全然軸がブレないんですね。さすが武士みたいな感じです。今日は町づくりということで岡林さんに語って頂きたいと思います。

⑦ パネリスト：岡林照壽氏　武田勝頼土佐の会会長

内容：

- 今言った。人と人の出会いは町興しの一つの大きなキーポイントに成ると思います。山梨との付合いが始まったのが十数年前か、韮崎の方たちが此方に来、我々も行ったり、議会のたぶん運営委員会の方達とだと思いますが、5 名くらい視察に来ました。例の武田邦信さん一行も来ました。こういう続いています。徐々に繋がっていく。小山田さんとは十数年前信玄公祭の甲州？？が初めてで、二回目が大善寺、去年 3 回目、今回が 4 回目です。中津先生も今回 4 回目ですが、彼女とはあっちこっちで合う不思議と、面白い方です。今度勝頼さんを書いてくれるので非常に楽しみにしてます。
- 先ほどの話で三枝夫人。僕の持っている資料では三枝夫人としか読めない。どうも北条夫人では無いか？僕もピンとくるんですけど、素晴らしいですね。情報をたくさん持っているからそういう話になるんだろう。僕は北条夫人と言える資料は持ってません。先生が今度書いてくれるんだろうと期待しています。
- 目的は町興しなんです。山梨・諏訪。山梨へ行ったときには，前の村長さんの親書を下げて行ったんですよ。韮崎の市長さんは直ぐに選挙で落ちてしまって返信も実はもらえなかったんですね。これで交流が始まるかなと思った矢先にプツンと切れた。今回は皆さんに報告なんですが、大月市の市長の親書を下げて来ました。昨日町長との表敬訪問をさせて頂き、そこで読み上げて頂きました。これはね市長・村長が表を向いて出てくれるのは非常に心強い。これは僕の一つの願いは、人の交流の次は物の交流をやりたい。山梨には葡萄や葡萄酒など良い物がいっぱい有るんでそういうものをこっちも欲しいし、土佐の鰹・酒文化を向で紹介したい。そういう事を繋げていくとゆうのが人の交流もあるし、物の交流もある。これで盛り上がって欲しい。最終的にはもう少しじゃないかなと思っています。

⑧ コーディネータ坂本氏

町興しで、先ほど中津先生が言われましたが、世の中の仕組みが変ってですね、たぶんタイミング的に見てもほんの 410 年 430 年何年前の事を、今文書で残しておかないとたぶん後 10 年したら、メタバースとかデジタル・シティズンとか新しい仕組みの中で出版文化・本の文化が無くなって来る。たぶん今中津先生に武田勝頼さんの回りのいろいろな事を調べて頂いて、今から情報を蓄積していって、そうするためにはこうやって皆が一同に集まって情報交換すればヒントをくれる人がいるんですね。今日の岡林さんの話を聞いても角田屋敷も私の実家？の隣に有るし、角田神社も有るし、植田神社も有るし、？？？神谷城もあるし、情報を今のうちに蓄積しておかないといけない。たぶん紙で無くデジタル蓄積になると思うんですけど、教育長さんがお越し頂いているんですけど、時代が変るんでは無く、新たなポジションにしていってお互いの心を繋いでいく。それで従来の歴史文化をしっかり残していく。

それともう一つ、やはり謀反じゃ無かった、裏切ったというのはですね。これは一つの仕組みじゃないかと思うんです。誰かを悪者にして、情報収集させた事によって世の中を変えていく。ようは仕掛けられている。けど庶民は仕掛けをまともに信じますよね。けどそれが自分にほんとの仕掛けが、やられてしまったところが見えてくるんじゃ無いかと思います。

実は私の研究というのは哲学研究で世界の研究をやってますから、1663 年～1665 年。1665 年にペストが大流行しているんです。隣の中国でも大流行していてものすごい数の人が死んでいます。日本にどうして入っていないか記述が無い。天然痘とかは 700 年の終わりでしょう。野中兼山は幽閉されて 40 年間。普通あり得ない。そういうときは何か病巣無かったか、子孫残してはいけなかったかで幽閉して閉じ込めますよね。野中兼山さんも？？？その現因もペストかもしれない。そういう見方からで言うと、ようは何かあって殺されたというんじゃ無くで病気かもしれない。日本だけ見ていると分からない。1663 年にイギリスとかでペストが大流行なんですよ。その数年後には香港とか中国に全部来ているんですよ。直ぐ隣の日本まで来ていない理由が無いのに、日本には病気の記述･歴史が無いですよ。そういう意味ではたぶん、そういう資料をまったく残して無かったという日本の問題点はあるかも知れないけど。そうやって見方をいろんな地域を見ていく事によって、だんだん？？？

もう一回順繰りにこれからの町造り地域造りにたいしてこの情報をどうやって活用するかこういう情報を基にしてお互い交流して、今までと違うネットワークだけじゃなく繋がりを創っていくために我々どうすればよいかと考えて欲しいですが。順番に

⑨ パネリスト：片岡氏　町興しについての意見は無い

⑩ パネリスト：中津氏

内容：

- 理慶日記は本物ではないという雰囲気でしたけど、私は本物だと思っている。なぜかというと理慶尼は雨宮氏の娘ですけど離縁されて尼さんに成ってます。勝頼とか三枝夫人といわれている勝頼の夫人、北条夫人と思うんですけど、それと一度も会った事が無いですね。一度も会っていなくて、本物の勝頼達は群馬に行くとしても、影武者の勝頼と奥さんは理慶尼のところに行って泊ってます。理慶尼は本物を知りませんから、本物の勝頼と奥さんが来たと思ってそれを日記に書いたりしている。理慶尼が騙された訳ではないが本物と信

じて思日記に書くということが、勝頼を助けるわけですね。小山田氏は勝頼がこの土地に来ているのが分かれば、汚名をしながら勝頼の逃亡を完全に助けた武将。ようするに大忠臣です。土佐の勝頼が本物であれば小山田氏は大忠臣になる。

・ 今までの歴史では裏切り者。いろんな意見が出て盛り上るって事が、反対意見があっても賛成でも何でもいいから盛り上がっていうことが町興しになるので、いろんな意見をあれはだめ、これはだめでじゃなくて、全部吸い上げて皆で究極の真実を探っていこう。とにかく楽しくやろうという事でいいじゃないかと思います。

⑪ パネリスト：伊与久氏

内容：

・ 先ほど群馬の東吾妻町と中之条町が共に忍者の里という事で名乗りを上げました。実は東吾妻町と中之条町ってこう云う所で言うのも何なんですが、仲が無茶苦茶悪い町なんです。なぜかと言いますと、昔は同じ真田領だったんですが、東吾妻町の出身の一族が中之条町に墓があるとか。中之条町の人が活躍したのが東吾妻町だったり。今の行政だと分かれているんですけど、昔は同じ吾妻という地域だったです。で岩櫃城という堅城の城下だったんです。でもですね 徳川の時代になった時に、川の向こうとこっちで市を開く順番が有って、中之条の方がちょっとズルをしたこと、船の利権でトラブルになったりで、だんだん仲が悪くなって、始まりはつまんない話だったんですが、中之条の町の議員さん連中は東吾妻町の逆を張る。東吾妻の方は中之条の逆を張るなど。

・ しかし同じ忍者文化を共有している同じ地域なんです。今外国人からインバウンドと言う話が出ていて、外国人からすると伊賀忍者、甲賀忍者、真田忍者なんです。でも中之条の人は中之条の忍者と言うし、東吾妻の人は吾妻忍者と言うんですよ。外人にしたら知ったこっちゃない。もっと言うと土佐の方々からすると中之条なんてどこに有るんだ、北海道か？みたいな話じゃないですか。

・ だからそういう細かいことっていうのは、地域の人はもっと大同団結してというか、もっと広いところで見ていかないとなーと私自分たち思いまして、忍者の技術を持っている人があの地域で、墓は中之条に有るんですけど東吾妻在住の？なと、あと中之条城のこの前までの町長が伊能(いよく)という方だったんです。でも私自身は東吾妻のルーツに持つ居与久なんです。それは天正年間に分家しているんですよ。居与久(伊能)なんて世の中で見たら 300 人くらいしかいないんで、それであっちの居与久こっちの居与久なんて意味ないんですよね。山田さんとかだったら一杯いますけど、居与久なら皆同じ居与久。そういう事を言うと何も始まらない。

・ 例えば今回岡林様の御協力で、おそらく真田は下準備で入っているはずですからと言う事を申し上げて、ないですかと言ったら、本当に有った。真田のお墓で、お真田のお墓は山田町中山に有った。町生協？社地の中に真田の墓があるんですよ。だから大事に守られたという事もありまして、因縁なのか、もしくは初代の館長さんが何かそういう情報をお持ちで、そこを自分所の社地として押さえて開発から守ったと思ったんですけれども。

・ 墓地は仁淀川町では無いんですね。大きいこの武田氏の範疇ということでは、このあたり一帯だったりして、もっと言うと和歌山であったり、諏訪であったり大きな流れを今後考えなくてはいけないだろうなと思うわけです。逆に仁淀川の武田となると、そんな

に面白い話では無いと思うんですよ。この大きな武田ロードみたいのが有ってそこでここが中心的な役割を果たしたといったら、また日本の歴史とも大きく関わって行く。だから構想を大きく構えて、大きく世界の人をまた引き込めるような仕組みっていうのを創っていくという、そういう構想をね 大きくしていくってことが、今「グローカル」という言葉がありまして、ローカルっていうところに宝が有る。それをグローバルに発信していくときにみんなしり込みしちゃうんです。でも自分のところの物を良く知ることで、その価値が分かれば、その価値を世界に向かって発信していくことが出来る。そういう小委というものを置いといて、大同を大切にすることでより大きな世界に対応していく、大切な宝を発進していけるんじゃないかな。少なくともここに有る物はそれだけの価値が有る物だと私は個人的に思います。

⑫ パネリスト：小俣氏

内容：

- 先ほど、お話をさせて頂けなくてはいけなかった事がありました。と申しますのは、コロナが始まる前の年に、武田家の皆様ご存知の山梨県甲府の信玄公祭りですが、テレビで映るのは、あれはセレモニーです。観光のためのセレモニーです。それ以外に武田家の武田旧恩会という会が御座いまして、武田旧恩会のトップが先ほど岡林会長が言われた武田邦信様、しかし今は、邦信様はお歳になりましたので、武田英信様、えいしんと書くんですけど、その方が武田家旧恩会の会長です。武田家旧恩会武田家英信様、また、武田家旧恩会役付きの方がですね、私どもの主宰の松本憲和の主張している「裏切りではない」という事を理解して頂きまして、コロナ下前、三年前ですかね、武田家旧恩会へ入会を許可されております。と申します事は、小山田信茂公は裏切り者ではないよという事を、武田家旧恩会御大将自らが認めてくれたものであると、私は理解しております。
- ということは、あとは世間一般に流布されております小山田信茂が裏切り者であるという通説をですね。一つでもそうでは無いんだ。武田家旧恩会の武田氏の末裔の武田英信様が許可してくれて許されている。この事をですね強く発信していく必要があるのではないのかなと思います。一番大事な事を忘れてしまって申し訳御座いません。
- その上で地域おこしということを考えていきますと、やはり一つ一つの事を積み重ねていくしかないんじゃないのか。先ほど岡林会長さんが、山梨の名産・土佐の名産という物流の交換というお話が有りましたが、私はそこまで大きく考えることはできません。できるのは、少なくとも大月市内今高齢化、尚且つ少子化ということで人口の流失だとか人口減少という事が言われています。なぜか分かりませんが、流失する人達を何とか引き止めたい。引き止めたいために、
- 平成 30 年 9 月 5 日の日にですね。大月市の皆さんに提案して御座います。ちょっとそれを読ませてください。

  これからの大月市を覗いたらという事で、ここと同じで自然景観が良いところで御座います。自然景観を滞在地として頂く方法を模索する必要が有るでしょう。

  例えば、今現在相模川で統一されていますが、昔は通称桂川というところが御座いました、ここはアユ釣りの名所で御座いました。そういうところで築場っていうんですかね、流れて来るアユを築場で捕獲するとかね。そういったことをやって観光客を呼べば

いいんじゃないか。というようなこと。あるいは、立派な沢が沢山有りますので、沢登して頂いた後バーベキューをしてもらったらどうだとか。ゆうようなこと。

・ 私が一番伝えたいことは、NEC の工場が御座います。なぜその NEC の工場がありますかというと、大月の初狩と云う所が御座いまして、そこの出身で御座います小林さんという方が NEC の会長を務めて居らました。その時に大月市の発展のためにという事で立派な NEC の工場を造られました。どんな内容をやっているのかは、詳しくはよく分らないんですけども、海底ケーブルを造っておられるという事らしいです。でその NEC の事を考えながらまず働き改革を考えなくてはいけないでしょう。自宅勤務・サテライト勤務会社に出勤しないでの勤務もかのうでしょうね。通勤時間の短縮になりますよね。さらに市内に住んでいる現在の親御さんの近くで生活をしてもらう様に、息子さんや娘さんを駅周辺の空き家に戻って頂く様に働きかけたら如何でしょうか。まったく今の社会を現しているんですけど、私自身、自分で言うのもおかしいんですけども、平成 30 年の時に見通した形で文書を書いています。そのことに驚いています。やはり自分の息子さん娘さんを自分の家の近くに置いておくこれが一番町の活性化に繋がっていくのではないかな。実を言いますと、個人的な事なんですが、私の家は四世代七人家族で御座います。私の母親が 97 歳でまだ健在で御座います。私のとこ、息子、奥さんと、孫が二人これで七人家族。それから娘が居ますが、それもたまたま大月市の車で 15 分か２０分ぐらいのところに居りまして、孫が 3 人、嫁いだ時にはやはり私のところ同じ四世代 8 人家族でした。ところがお爺さんお婆さんが亡くなられて、今現在三世代のやっぱり 7 人家族です。お爺さんお婆さん、娘のご主人と娘と孫 3 人。私自身孫が 5 人近くにいてくれる。私の思いはやはり自分の家近くに、親の近くに子どもさんを何とか置いとけ。？？？　私の息子に言わせればそれは「親の勝手だぞ」孫は自分達で進む道があるだ。ということで話をすることもあるんですけども、一番私が望んでいる基本は、まず自分の家に子供がいて、孫がいて笑顔ができるという事が一番大事な事じゃないかなと思っております。それが一番町の活性に繋がってくる。かように思っております。

⑬ コーディネータ：坂本氏

いろいろ皆さんの話を聞いてきて、より見えてきたこともあるし、まあ地域づくりをどうしようか。一言で言ったら、私も 67 歳ですけど子どもの頃まではやっぱり言えなかったし、どういう家系にあるのかということは、嫡男、長男が口頭でしか言わないんです。表の山内家とか上士は違いますよ。下士にとってはだいたい証拠を残していけないから、絶対にですね長男に対してだけにしか歴史自分の家系について、それも口頭でしか言わなかった。それに家系図は無いんです。その中で記憶力の悪い方、心配な人はこっそりと書いて襖の裏へ貼り付けたりして隠してあるんですよ。もうそろそろなくなってくる。もし皆さん家を壊すときがありましたら、ちょっと壁紙を剥がしてですね、何かないか調べて下さい。という具合に、やっと言える時期で、実は私の子どもの頃にもですね。もし言ってばれたらまた殺しにこられる、いうのはほんとに現実まだ 400 年たってもそういう感覚があったんですよ。それがやっと、この 4・50 年間のところに言っても安全かなという時代がやっと来た、440 年掛けて。

本能寺の変、1583 年？ 3 月に武田さんいろいろありまして、 6 月 2 日本能寺の変があって、 6 月 15 日に光秀が一応死んだという事にしておいて、天海上人になって徳川家康との

関係もあって、本能寺の変があって、その後家康とか 実際家光は死んでなくて天海上人で、春日局は実際奥さん？？？その後家光の乳母になってて、くる時は多分、春日局が来るときは1583年の3月以降ですよね。たぶん香宗我部さんによって環境が整えられている。その時に真田さんとかが逃げ道を作って、下準備をした上で逃げて来たんじゃないか。「うちの先祖の明智は50人で以降ですよね、1880に以降逃げてきているんですよね」？　うちの明智とか石谷とか土岐一族は？？？皆言うんですね。そういう人たちが逃げてきて、もう一つは、土佐という国は大昔から公卿じゃないけど、すごい位の高い人の落ち延びるところであったというすべての発祥の地でもあるし、逆に土佐から出て行って偉大な人に成る。坂本龍馬？？？　今まで高知は坂本龍馬しか言わないんですよ。武田勝頼と言っても誰も信じないし言わない。そろそろ皆さん長曾我部も武田も声を上げてですね地域文化を創ってお互い交流して、それから町づくりをして、やっぱりアイデンティティが無いと町って教育長さん？？？　地域にアイデンティティて自分のものが無いと、それが無い地域ではいくら、たとへば、ネットワークで人が入ってきても、そういう地域を創らないといけない。その為にはいろいろ情報を交換し合って、町づくりみんなで一緒にやっていければと。

⑭ パネリスト：片岡氏

明智光秀は実は、武将と僧侶の二足の草鞋だったんです。どちらかというと本職は僧侶だったんです。だから明智光秀はカツラだって言われてるでしょ。噂が有ります。信長から「この金柑頭」とか言われた。普段は頭を剃っていて、自分が武将の役をやるときだけカツラを被っていた。どうしても僧侶の仕事が有るときは影武者の従弟の光忠。父親の弟の光久の息子の光忠が全部武将の代わりをしていた。光秀は坊主だった。だからいろんな光秀のお寺五つも六つも掛け持ちでもって、全国行脚を僧侶の格好で歩いてたんで、土佐に流れても僧侶の格好なのでフリーパスで？？？なんにも変わらなかったんです。おいわざき？でね亡くなったのは影武者の光忠という従弟だったんですよね。光秀は悠々と土佐に行ったり、また江戸に行ったりと、いろんな所に回っているんです。堺だとか？？？には光秀の三つも四つもありますから坂本なんかにも有りまして、茨城の方にも天海に成る前に「へとざき？」に行って、？？？に行くと常陸の方から来たと書いてある。というような面白い裏話が有ります。

⑮ コーディネータ：坂本氏

どうも有難うございました。歴史って面白いですね。本日のテーマ武田勝頼土佐生存説と町興しについて、時間の関係もありましてこれで終わります。本当にいい情報を有難うございました。以上でパネルディスカッションを終わります。最後に岡林さんからご挨拶致します。

⑯ 岡林会長挨拶

以上で会議は終わりましたが、最後にご挨拶申し上げます。今日は山梨の遠くから、それから愛知より会員の方が参加してくれています。今日は教育長さんが来てくれていることは大変嬉しいことです。？？？城主のお殿様の末裔の方がこの中にいます。いろんな方が情報を持ち寄っていろんな集まりネットワークが出来てこういうちょっとした会議を続けていくことも一つの町興しになろう。町興し何を町興し、こういう文化であったり、踊り芸能、文化

財の活用を有効にしていけばいい。僕が紹介した中の仏像がどうも国宝になりそうな情報を僕は頂いています。あと数年先かある程度年数が必要。そうなると国宝がここに有るだけでも、それだけでも大きなミュージアムができるんじゃないか。観光の目玉になるんじゃないかと希望も抱いていますし、今日はたくさんの有意義なご意見を頂きまして、なんとなく勝頼様がここへほんとに来たような気がちょっとづつ湧いています。今日は遠いところを有難うございました。是で終わりたいと思います。

掛け声　会長エイ、エイ、皆オー

(7)　展示品

右写真：大崎半四郎の墓所、大崎半四郎墓所、ひょうたん桜

石碑の裏には「甲斐国領主武田信玄ノ二男ニシテ大崎玄蕃ノ弟ナリ天正十三年二月八日大崎川井土居に轉シ大崎半四郎ト稱ス慶長十五年三月十四日土佐領主ノ追手ノ為メ遂ニ於此所ニ討死ス」と書かれている。

A 系図から、武田信仲について、(信玄の 3 男)天文 11 年(1542)壬寅甲府に生まれる、葛山三郎・母は転法輪三条大納言公仲公の女なり、大崎に下って大崎長門守信安という。天和 4 年（1618）戊午 7 月 8 日 77 歳で卒す。(土佐集郡史には大崎城主大崎長門)

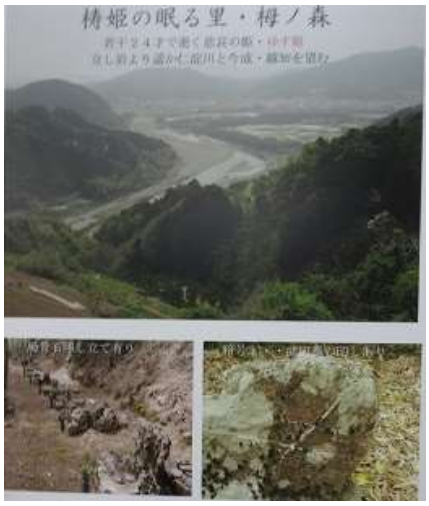
戒名：法定院殿常雲鏡山大居士

B 系図から、信仲の嫡男「安行」が大崎半四郎と呼ばれ、大崎藤野々に住居す、討ち取られた思われる慶長 15 年(1610)は 40 才代と推定され、血気盛んな年頃が災いして討たれたのでは。

・次男が「定安」大崎長門守を名乗る

・長男安行の嫡男(信仲の孫)安政、興三兵衛とも(地検帳にでてくる)

C 系図から、信仲について、駿河葛山に居　大崎長門信安という




右写真：立し岩より遙か仁淀川と今成・越知を望む、
　　馬骨石印し立て有り、暗号・・・武田菱の印あり

檮姫(ゆず姫)について。(系図から)

元亀元年庚午(1570)兄信勝と同所の高遠で出生・「13 歳にて天目山にて自害とは誤りなり」横畠左馬助貞秀室となるが、文禄 2 年(1593) 2 月 8 日 24 才にて逝去しており、祖母の諏訪御寮人由布姫と同じく若く他界する。

　法名逝徳院殿慈月順光禅定尼・横畠栂の森葬る。

C 系図：「横畠栂の森畑の緑に立し岩あり此の所岩の東馬骨石を印し立て有り」と書かれている。

地域では、お姫様のお墓と言われて代々護られている。

＊　遠山勘太郎友信の娘は元亀２年(1571)９月 16 日の死亡説からすると、信勝同様に檮姫の母と思われます。

右写真：大崎八幡宮、御本尊御神体、武田剣花菱家紋付き手鏡(二件共仁淀川町文化財指定)

大崎八幡宮について

系図から：天正 14 年(1586)勝頼建立、享保９年(1724)井上三郎右衛門、文化６年(1809)中島益右衛門が建立の記録あり。

神主系図：御正体 12 尊木像・神鏡一面・幣一本奉納、木像は武田氏始祖十二名と思われ(武田神社から)勝頼白ら携えて来ると言い伝えられる。神鏡は、勝頼の肖像画(高野山持明院)の紋所と同一で小坂観音院(長野県岡谷市)に有る手鏡と柄がよく似た材質で作られている。

仁淀川と土井川に挟まれた天然の要害、大崎八幡宮とも武田八幡宮とも呼ばれています。土佐州郡志(1710 年ごろ)には古城跡大崎長門居とあるが、一国一城令(1615 年)で城取り壊し時に生存した大崎長門が記録に残る。

片岡昌一様が描いた

右写真：武田正晴の墓所流光山成福寺跡　青源寺末寺・明治五年廃仏希釈で廃寺、聖観音立像、武田正晴の墓

武田正晴について

A 系図から：幡多郡寺山住人松村右京の養子、元和８年(1622)壬戌 10 月 18 日卒 49 歳。戒名　真願院殿雲晴鏡白大居士。

B 系図：幼名武田小三郎・松村六太夫、後寺村六太夫天正２年甲斐にて出生母は三枝三郎晴友の娘、父勝頼共に香宗我部家を手頼り長岡郡香美郡と廻り其の砌僧二人共奉之内にあり一人は大崎の成副寺に止まり一人は別れて幡多郡安並の石見寺に止まり住侶となる此の石見寺の世話で養子となる。

C 系図から：天正２年（1574）高遠に生まれる父と共に土佐に下る幡多郡平田村松村右京

源秀春の養子となる、後大崎の寺村に返る。

右写真：武田信勝の墓所、信勝墓所、墓所前の祠

信勝について

勝頼の嫡男、母は信長の養女・遠山勘太郎友信の娘、永禄10年(1567)信濃伊那郡高遠に生まれ。寛永6年(1629)7月11日63才逝去、墓所は烏帽子岩と川井との間に川端に森あり此の所に葬る。父勝頼と共に大崎に下り山岡勘右衛門と云うと、A/C系図に書かれている。

戒名：清照院殿峯岩浄空禅定門

津野町貝ノ川(地検帳では甲斐川)に大崎神社あり、祭神は大崎玄蕃で最初に甲斐川に来たのが大崎五郎衛門として祀られている。後分家して須崎市上分横川にも分霊して祀られている。

右写真：美津岐夫人(三枝夫人) 武田勝頼妻子肖像画(高野山持明院所蔵)

勝頼の配は：織田信長の養女遠山勘太郎の娘　元亀2年(1571)9月16日逝去、信勝と檮姫の母

後配：北条氏康の娘と有るが実は三枝三郎晴友の娘也と書かれている。墓所は「みつぎ夫人」と共に葬られていると系図に書かれている。

八幡宮には美津岐神社＝(八重垣姫・三枝夫人)と鳴玉神社(武田勝頼)の祭神が並んで祀られています。

北条氏康の娘が嫁ぐのが天正5年(1577)1月22日

勝頼の2番目夫人美津岐夫人(三枝夫人)：三枝三郎晴友の娘也、には次男「正晴」が天正2年(1574)に生まれる。

信長の養女遠山夫人が亡くなって、北条夫人が嫁いで来るまで約6年近くあり、その間に勝頼には三枝夫人がいて次男「正晴」が生まれている。また土佐に落ち延びて天正12年(1584)4男「勝季」を大崎村寺村で出生している。

右写真：武田勝頼(大崎玄蕃)

伊奈四郎/諏訪四郎勝頼

・勝頼について

天正10年3月11日天目山で信長軍に討ち負け、上野国利根郡大谷に退き左内と名乗る。其れより土佐吾川郡安居村内樫山に移り天正11年同郡片岡郷大崎の寺社に移る天正13年川井土居に2月8日着住居

A系図から

：天文15年(1546)出生、武田信玄の四男、母は諏訪刑部大輔頼茂の娘(小説では由布姫)慶長十四年(1609)八月二十五日64才逝去、大崎川井土居屋敷に葬る。柿の木の本に葬るとも。

戒名：成福院殿榮秋道勝大居士

天正 13 年流光山成福寺建立・同 14 年川井正八幡宮建立

武田勝頼肖像画(高野山持明院所蔵)

B 系図から

：長岡郡立川の峯際空岩⇒空岩⇒植田村西屋敷門田屋敷⇒香我美郡大谷⇒楠目大法寺⇒安居村樫山⇒大崎寺村⇒大崎村川合信貞と号す

戒名：成福院殿榮秋道勝大禅定門、川合土居下柿木本葬る

右写真：武田勝頼落人物語

この物語は、すべては次の「3＋1」の系図から始まり、登場人物の名前生死年号などの内容も系図の中から引用しています。

「3＋1」の系図について

１番、大崎八幡宮代々の神官、岡林家に伝わる武田家系図

２番、佐川町の武田家の末裔山崎氏、の分家に伝わる武田家系図

３番、　　同上　　、嫡流に伝わる武田家系図

＋1、大崎八幡宮歴代神主、の岡林家に伝わる神主系図

＊ 武田信玄の 4 男である甲斐武田家頭主「武田四郎勝頼」(伊那四郎・諏訪四郎勝頼ともいう)は、定説では天正 10 年(西暦 1582 年)天目山で自害しています。

＊ しかし、仁淀川町では、当時の土佐の武将・香宗我部氏を頼って土佐に落延び、その後大崎村川井(現仁淀川町大崎)に入り、名前を「大崎玄蕃(おおさきげんば)尉」と変名し、この地で 26 年ほど活躍し、慶長 14 年(西暦 1609 年)8 月 25 日 64 歳で逝去され、鳴玉神社に葬ると記録(仁淀川町及び佐川町に残る武田家系図に記載)があります。

＊ また、この仁淀川町周辺には一族の墓所を含めて多くの史跡や物証等が残されており、その他、今に伝えられてきた「玄蕃おどり」や「玄蕃太鼓」などの地域芸能も残されています。

7, 懇親会　17：30～9：30

中締めの様子

土佐料理きたはら　鰹のたたきの粗塩での食べ方を教えて頂いた。岡林会長が正月に当たったフグも出てきました。

土佐は大酒飲みで有名ですが、初めはコロナもあり返杯等はなかったが、酔いが回ると「武田勝頼土佐の会」の副会長（会長の義弟）が返杯の交換をはじめ、坂本教授もコップ酒になった。ビンゴ大会もあって盛り上がったが、中津先生などが帰られるので意外と早く終わった。

小山田信茂顕彰会も WBC を見たくて溝口さんの運転にて中締めで帰った。WBC は高知では放送していなかったので、宿泊所で飲み会となった。急いで帰ったのでつまみ不足でした。

8, 二泊目　宿泊　仁淀川観光センター秋葉の宿

かなり昔学校だったそうです。洗面所と冷蔵庫は部屋に付いていた。お風呂は 6 人程度入れる共同風呂。二人一部屋でした。折笠氏・島崎の部屋の引戸は建付けが悪く大きな音がする。

＊夕食は宿舎では取らなかった。

【三日目】

9, 復路

秋葉の宿（元学校）

宿舎前記念撮影

宿舎前のダム

宿舎からの風景

仁淀川町観光センター秋葉 8：10 ⇒国道 33 号松山市 ⇒今治市 ⇒来島海峡 SA(トイレ・お土産タオル)　⇒しまなみ海道 ⇒山陽道自動車道 ⇒吉備 SA(昼食さわら丼・他五人ラーメン・お土産じゃこ天・給油？)　⇒新名神高速道路 ⇒伊勢湾岸自動車道 ⇒湾岸長島 PA(トイレ)
⇒新東名高速道路 ⇒長篠設楽原 PA(トイレ)　⇒中部横断自動車道 ⇒双葉 SA(トイレ・給油)
⇒中央自動車道大月 ⇒会長宅解散

朝食：7：30　8：00 に宿舎前集合して出発

来島海峡 SA でお土産購入(今治タオルなど)。じゃこ天 200 円を購入して立ち食い美味かった！

来島海峡 SA からの風景（造船所のクレーンが見える）

昼食：吉備 SA　5 名は地元山菜を使った黄ニラねぎラーメン 1,400 円を食し。島崎さわら丼 1,380 円を食す。

来島海峡 SA でのじゃこ天が美味しかったのでお土産に買う人がいた。

黄ニラねぎラーメン(1,400 円ごはん付き+70 円)

トイレ休憩で寄った長篠設楽原 PA で、長篠の戦いの立て看板を見て当時を思う。

立て看板

長篠の風景

立て看板の解説

天正 3 年(1575 年)旧暦 5 月、長篠城を取り囲んでいた武田勝頼郡は包囲を解き茶臼山付近に布陣する織田・徳川連合軍に連吾川を挟み対峙します。21 日早朝、織田・徳川連合軍 3 万 8 千人に対し武田軍 1 万 5 千人は雨もよいの中進軍を試みますが、三段に設けられた馬防柵、土塁、火縄銃に行く手を遮られ、一部が馬防柵を突破するも時間と共に信玄以来の武将の相次ぐ討死等損害を積み重ね遂には撤退を余儀なくされました。武田軍は 1 万 2 千を失い撤退する中で、追撃する織田・徳川連合軍も 5 千を失う激しい戦いでありました。

以上